

## 未来を拓く言葉の力を培う国語科学習の創造 ～学びを自覚し、共に学び続ける子どもの育成～

研究部長 馬原 大介

### 1 これからの社会に求められる力

今日子どもたちが成人して社会で活躍する頃には、Society5.0時代が到来し、社会の在り方そのものが現在とは「非連続」と言えるほど劇的に変わるとされている。生産年齢人口の減少やグローバル化の進展、技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく変化し、子どもたちが就くことになる職業の在り方についても様変わりすることが予想されるからである。

このような時代にあって学校教育には、一人一人の子どもが自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、「持続可能な社会の創り手」となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている。

この資質・能力とは、具体的にどのようなものか考えてみたい。中央教育審議会は、『「令和の日本型教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）』の中で、次代を切り拓く子どもたちに求められる資質・能力として、「文章の意味を正確に理解する読解力」、「教科固有の見方・考え方を働かせて自分の頭で考えて表現する力」、「対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し新しい解や納得解を生み出す力」などを挙げている。

また、この資質・能力を育む手立てとして「個別最適な学び」と「協働的な学び」を挙げており、これらの充実を図ることを通して「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指すことが求められている。

さらに国際的な動向を見ると、OECDが発表した“Learning Compass 2030”において、子どもたちがウェルビーイングを実現していくためには「自ら主体的に目標を設定し、振り返りながら責任ある行動がとれる力を身に付けること」の重要性が指摘されている。

以上のことを踏まえ、国語科においても、子どもの実態に寄り添い、きめ細かく指導・支援することはもちろんのこと、子ども自身が学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができる学びや、他者と協働して学び合う機会を一層充実させていくことを通して、予測困難な時代を生き抜くために必要な「未来を拓く言葉の力」を子どもに培っていくことが重要となる。その鍵となるのが、「見方・考え方」を働かせることである。

### 2 求められる国語科の力

国語科における、教科固有の見方・考え方とは、「言葉による見方・考え方」である。この教科固有の見方・考え方を働かせることが、教科の本質に迫る学びを生み出す。学習指導要領において、「言葉による見方・考え方」を働かせるとは、「児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること」とされている。

「言葉への自覚を高める」ためには、まずは言葉に着目して、自分なりの考えをもつことが必要である。その上で、考えたことを俯瞰して問い直す、メタ認知する学びを行うことで、自らの「言葉への自覚を高める」ことができる。このような学びを生み出すことを目指し、子ども自身が学びを自覚する授業を積み重ねることが重要である。

また、「言葉による見方・考え方」はその子の既有知識・生活経験に大きく左右される。同じ言葉でも、どのように捉えるか、どう使うかについては、納得解はあっても絶対解はないことの方が多い。その納得解は、他者との交流によって広がり、深まっていく。対話を通して学び続けることで、「言葉による見方・考え方」が働くだけでなく、他者をより価値あるものとして尊重することができる。

今後目指すのは、『学びを自覚し、共に学び続ける』授業である。子どもが「学びを自覚し」、仲間と「共に学び続ける」ことで、小学校段階における国語科の学びを着実に蓄積し、他教科、日常生活、将来に波及するような汎用性のある学びにしていく。さらに、その学びを活用し、予測困難な未来を仲間と共に切り拓いていきたいと自ら思えるような、主体的な子どもを育てたい。

### 3 研究の実際

#### (1) 『学びを自覚し、共に学び続ける』授業とは

学びの自覚には様々な捉え方があるが、本研究においては、次の三つを重視する（図1）。

一つ目は、「学びのつながりを自覚する」ことである。子どもたちが、これまでの学習と単元の学習がどのようにつながっているか自覚し、単元の学習に向けて準備ができるように、学びの土台をつくる場を設定する。

二つ目は「学びのゴールを自覚する」ことである。『学習課題』という学習のゴールを含めた大きな枠組を設定することで、子どもは見通しをもって学習に取り組むことができる。

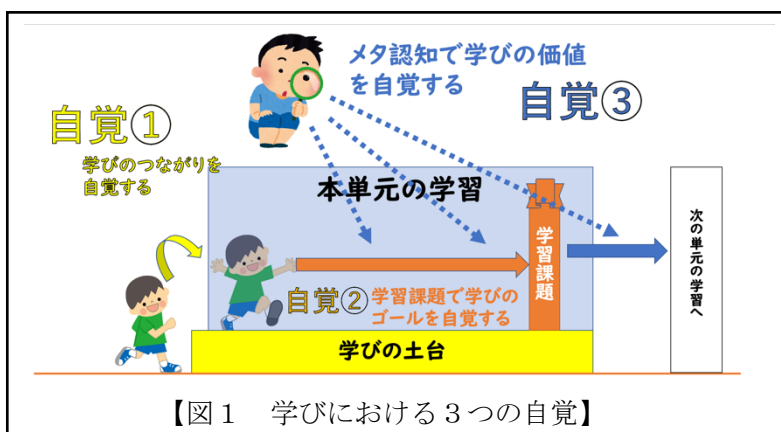
三つ目は、「学びの価値を自覚する」ことである。学んだことをただの発見や驚きで終わらせるのではなく、次の学習へどうつながるか考えたり、学び方について振り返ったりする場を設定することで、子どもが自らの学びをメタ的に捉え、価値づけることができるようにする。

また、共に学び続けるとは、これまで本研究会が大切にしてきた、対話を大切にしたい学びである。子ども一人一人が考えを表出し、それを比較して共通点や相違点を見つけ、意見を述べ合う学びや、主張を述べる際、根拠だけでなく、生活体験や経験などの理由づけを行いながら、対話の中で納得解を導き出す学びを大切に、関わり合いの中で「言葉による見方・考え方」を更新できるようにする。

以上のことを大切にしながら、『学びを自覚し、共に学び続ける授業』に取り組むことで、子どもに「未来を拓く言葉の力」を培うことができると考える。

#### (2) 視点について

「学びを自覚し、共に学び続ける子ども」を育む授業を展開していくために、以下に示す二つの視点を大切にしたい授業づくりを行う。



【図1 学びにおける3つの自覚】

### 【視点1：学びを自覚するための手立て】

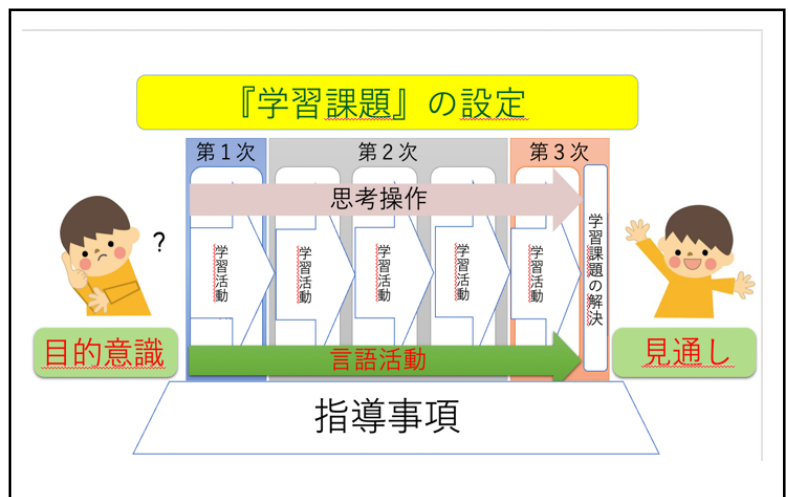
子どもたちが自らの学びを自覚するために、三つの手立てを行う。学びの土台づくりでは、既習事項の掘り起こしや調べ学習などを行うことで、学習の準備を整え、どの子も安心して学習に取り組めるようにする。学びの指針となる『学習課題』は、子どもにとって学習を見通すだけでなく、学びの価値を確認できるよりどころとなる。立ち止まって振り返る場合は、学んだことを価値づける場である。このような学びの土台づくりによって、子どもは安心して学べる心の準備をし、『学習課題』で見通しをもって探究的に学びながら、学んだことを互いに価値づけしていく。

#### ① 学びの土台づくり

子どもたちの既有知識や生活経験には、大きな違いがある。これまでは、学校生活という協働的な学びの中で、相互に補完していた部分が多々ある。しかし、社会情勢の変化や子どもたちの多様化によって、文化や言語活動など、学びの前提となる知識や経験が乏しく、単元の導入からつまづいてしまう子もいる。そこで、第一次において学びの土台づくりを行う。関連する絵本の読み聞かせや体験活動、既習事項の掘り起こしなど、子どもが学びに向かうことのできる土台をつくることで、どの子も学びのつながりを自覚でき、本単元の学習に取り組むことができる。

#### ② 学びの指針となる『学習課題』

『学習課題』を設定する際、「指導事項」「思考操作」「言語活動」の3つの視点を大切にし、子どもの問いから学びをつくっていく。そうすることで、子どもにとって、「この言語活動を達成するために、こんな考え方（思考操作）で、こんなことを大切に（指導事項）にしていく。」という自然な学びの流れができる。これは、教師から見ると「この力をつける（指導事項）ために、こんな方法（思考操作）で、この言語活動に取り組ませる。」というめざす学習の流れでもある。



【図2 学習課題の設定】

つまり、3つの視点で『学習課題』を設定することが、授業における学びの指針をつくることとなる。このような『学習課題』を設定し、これまでの学びとのつながりや、これからの学びの価値を単元の導入段階で自覚できるようにすることで、子どもたち一人一人が、自らの考えを大切にしながら、見通しをもって学ぶことができるようにする（図2）。

また、学習内容を、子どもたちにとって「学びたい」内容にするためには、具体的で生活とつながる言語活動の設定が必要である。「目的・場面・状況」が明確に設定されていて、さらにそれが指導者と子どもとで具体的に共有されていることが重要である。

#### ③ 立ち止まって振り返る場の設定

子どもが自らの学びの価値を自覚するためには、学びを内省することが大切である。一時間や一単元の学習を通して、「何を学んだのか。自分の学び方（学びのプロセス）はどうだったのか。それ

は今後の学習にどのように生かされるのか。」等、自らを振り返る場を設定する。さらに、子どもが書いた振り返りについて、教師がコメントを記入したり、授業で取り上げたりして丁寧に価値づけしていく。そうすることで、子どもたちは自らの学びの価値を自覚する。

また、振り返りを子ども同士で共有することも重要である。授業の導入や終末において、振り返りを共有する場面を効果的に設定することによって、他者の振り返りの視点から振り返り方を学ぶ機会が生まれる。ときには、一人の子どもの振り返りが前時と本時の学びをつなぐ重要な架け橋となることもある。このように、振り返りを行うことだけが目的ではなく、振り返りを通して子どもが学びを調整する機会を大切に作る場をつくることも、立ち止まって振り返る場をつくることである。振り返りをきっかけに、子どもが立ち止まり、自らの考えを見つめ直す。このような学びを通して、振り返りの価値は一層高まる。

＜視点1における手立て＞

○学びの土台づくり ○学びの指針となる学習課題の設定 ○立ち止まって振り返る場の設定

【視点2：共に学び続けるための工夫】

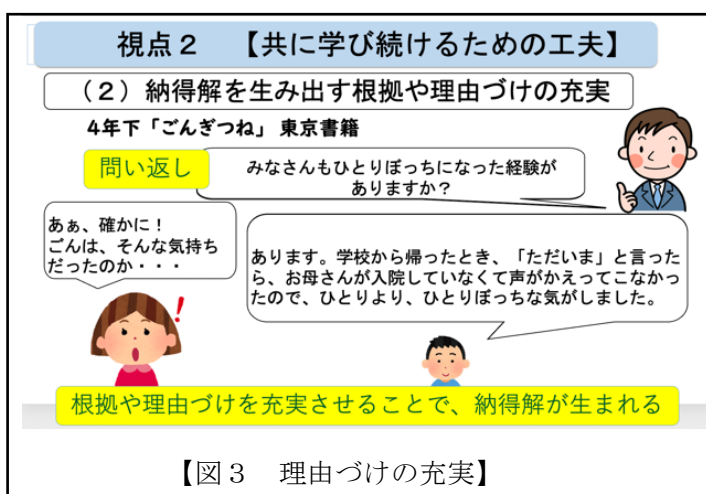
国語科において、共に学ぶとは、他者と協働的に学ぶことであり、学び続けるとは自らの見方・考え方を更新し続けることだと言える。自らの考えを表出し、比較・検討する場を設定することで、子どもたちはお互いの考えの共通点や相違点に気づく。さらにその根拠や理由を述べ合いながら納得解を模索する中で、それぞれの「言葉による見方・考え方」が働き、更新されていく。

① 全員が考えを表出し、比較する

全員が考えを表出して比較するためには、子どもたちの考えが一目でわかるようなようにする手立てが必要である。言葉で伝える際はキーワードにしたり、シンキングツールやイラスト、色、動作化などを用いたりして思考を可視化する。そうすることで、子どもたちは考えを形にするために自らの「言葉による見方・考え方」を働かせる。また、どう違うのかだけでなく、なぜそれを選んだのか、それは何を根拠にしているのか検討し合う場を設定することができる。

② 納得解を生み出す根拠や理由づけの充実

他者との対話を通して納得解を生み出す中で、重要になるのが主張を支える根拠や理由づけである。教師が積極的に関わり、ときには問い返ししながら根拠を明確にしたり、子どもの既有知識や生活経験を引き出して理由づけを行ったりしながら、納得解の生み出し方を学んでいく(図3)。そのやりとりを板書で整理することも大切にしたい。さらに中高学年では、主張を支える根拠や理由づけが適切か検討しさらに深く主張について考えさせたい。このよ



うような学びを通して納得解を模索する中で、子どもたち一人一人の「言葉による見方・考え方」は働き、更新されていく。

＜視点2における工夫＞

○全員が考えを表出し、比較する ○納得解を生み出す根拠や理由づけの充実

# 熊本県小学校国語教育研究大会

## <分科会Ⅰ>

学年	領域 (郡市)	単元名(教材名)	授業者	司会者	助言者
1年	話・聞 (菊池)	ヒントの内容や順番を話し合い、『なんでしょうクイズ』を作ろう(これは、なんでしょう)	中村 芳弘 (大津町立美咲野小学校)	西山 桂子 (合志市立合志南小学校)	吉本 一成 (大津町立美咲野小学校)
2年	読む (上益城)	大事な言葉に気をつけて読み、『楽しいおにごっこ教えちゃうよ!ブック』を作ろう(「おにごっこ」)	松岡 さゆり (甲佐町立白旗小学校)	坂崎 慎太郎 (益城町立益城中央小学校)	山下 淳子 (御船町立木倉小学校)
4年	話・聞 (玉名荒尾)	話の中心がわかる発表の仕方を使って、調べたことを学級のみんなに発表しよう(調べて話そう,生活調査隊)	北島 智博 (玉名市立小天小学校)	森 洋祐 (南関町立南関第二小学校)	児玉 伊左夫 (荒尾市立府本小学校)
5年	読む (阿蘇)	すぐれた表現に着目して読み,物語のみりょくをまとめよう(「大造じいさんとがん」)	中島 高義 (阿蘇市立一の宮小学校)	甲斐 恵美子 (阿蘇市立内牧小学校)	本田 雅隆 (高森町立高森東学園義務教育学校)
6年	書く (八代)	伝えたいことを明確にして書こう 未来の自分へ『思い出アルバム』(思い出を言葉に)	藪 沙代子 (八代市立八代小学校)	吉本 清久 (八代市立太田郷小学校)	久保 瞳 (八代市立鏡小学校)

## <分科会Ⅱ>

学年	領域 (郡市)	単元名(教材名)	授業者	司会者	助言者
1年	読む (熊本市)	いろんなちがいを見つけて、『どうぶつの赤ちゃん びっくりずかん』を作ろう(「どうぶつの 赤ちゃん」)	緒方 傑 (熊本市立桜木小学校)	都田 雅美 (熊本市立楡木小学校)	木下 浩文 (熊本市立麻生田小学校)
2年	書く (山鹿)	ぴったりの言葉をえらんで、『自分だけの詩』を作ろう(見たこと, かんじたこと)	井出 愛子 (山鹿市立山鹿小学校)	益田 裕子 (山鹿市立菊鹿小学校)	荒平 真寿美 (山鹿市立三岳小学校)
4年	読む (人吉球磨)	興味を持ったところを中心に要約し、『紹介カード』を作って紹介しよう(「ウナギのなぞを追って」)	木下 晃司 (あさぎり町立上小学校)	浅生 昇一郎 (湯前町立湯前小学校)	東山 幸輔 (あさぎり町立上小学校)
5年	書く (葦北水俣)	書き表し方を工夫し、『おすすめの本カード』を作ろう(この本, おすすめします)	庭月野 竜王 (水俣市立袋小学校)	那須 真一郎 (水俣市立水俣第一小学校)	濱田 真理子 (芦北町立田浦小学校)
6年	話・聞 (天草)	資料を効果的に使って、『夢スピーチ』をしよう(今, 私は, ぼくは)	濱田 祐輔 (天草市立本渡北小学校)	矢住 美亜 (天草市立本町小学校)	鶴田 英子 (天草市立倉岳小学校)

※第3学年の授業並びに分科会は、諸事情により実施できなくなりました。ご了承ください。

## 【1年（話すこと・聞くこと）】

ヒントの内容や順番を話し合い、『なんでしょうクイズ』を作ろう（「これは、なんでしょう」）  
指導者 中村 芳弘（大津町立美咲野小学校）

視点1 学びを自覚するための手立て

視点2 共に学び続けるための工夫

単元

### 学びの土台

これまで：伝えたいことに関連する事柄を具体的に思い出し、必要かどうか判断して選ぶ  
これから：互いに話をつなぎながら、目的に応じて、伝える内容や順序について話し合う

### 学習課題

ヒントの出し方を工夫して、自分と友達のアイディアをあわせながら、『なんでしょうクイズ』を作ろう。

#### 指導事項

互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐこと  
A 話すこと・聞くこと（1）オ

#### 思考操作

ヒントの出し方による違いを見つけ、提示する順序について考える

### 言語活動

「なんでしょうクイズ」を作る

#### <立ち止まって振り返る場>

すぐに答えがわかる問題とだんだんと答えが絞られていく問題があったことを想起し、提示したヒントに着目することで課題を設定する。

#### <考えを表出し比較する場>

答えは同じだが、ヒントの順番が違う問題を提示し、ヒントの出し方と解答の選択肢との関係に着目しながら、ヒント作りのコツについて話し合う。

言葉による  
見方・考え方を  
働かせる

#### <納得解を生み出す根拠や理由づけの充実>

ヒントの内容や順番によって解答の選択肢が減っていくことを、タブレットを操作して視覚化しながら話し合うことで、それぞれの考えを明確に比較することができるようにし、根拠のある意見交流を通して、双方の納得解を生み出せるようにする。

本時

### 本単元で目指す子どもの姿

対話を通して自分の考えが変わったり深まったりすることを自覚し、話し合いを楽しみながら、それぞれの考え方の良さについて認め合える子ども。

# 第1学年1組 国語科学習指導案

指導者 大津町立美咲野小学校 中村 芳弘

- 1 単元名 ヒントの内容や順番を話し合い、『なんでしょうクイズ』を作ろう  
ふたりで考えよう「これは、なんでしょう」(東京書籍1年)
- 2 学習課題 ヒントの出し方を工夫して、自分と友達のアイディアをあわせながら、『なんでしょうクイズ』を作ろう。
- [指導事項] 互いの話に関心をもち、質問や相槌など相手の発言に反応しながら話をつなぐことができるようにする。 A 話すこと・聞くこと(1)オ
- [思考操作] ヒントの出し方による違いを見つけ、提示する順序について考える。
- [言語活動] 『なんでしょうクイズ』を作る。

## 3 単元について

### <教材観>

本教材は、互いに意見を出し合うことで、相手の発言を踏まえながら話をつないでいき、考えを広げたり深めたりするなどの経験を積み重ねることをねらいとしている。二人で話し合うことは、今後、小グループや学級全体へと発展させていく意見交流の基本となるため、相手をよく見て傾きながら聞いたり、話題に沿って自分の考えを話したりするなど、話し合いの基本的な形式を学習することにも適している。そこで、クイズ大会に向けて問題やヒントの工夫を考える活動を通して、新たな気づきやより良い考えを見つけるなど、話し合いのよさを存分に感じさせたい。なお、身近なものの特徴を観察し、言葉で表現することで、ものと言葉のつながりに対する意識を育てることに適している。

### <児童観>

子どもたちはこれまで、夏休みの思い出や自分の好きなものについて話す活動を通して、具体的に想起した事柄の中から必要なものを選んで伝える学習を積み重ねてきた。

また、身近なことを表す語句も、話や文章の中で使うことで、自分の語彙として身に付け続けている。

しかし、話す順序と伝わり方について考えることや他者と意見を出し合うことで合意形成を行う経験は少ない。

### <視点について>

#### [視点1] 学びを自覚するための手立て

はじめに、教師が作成した「なんでしょうクイズ」をもとに、出題者は身近なものから問題を作ることや、回答者はヒントをたよりに答えを絞っていくことなど、手順や約束について確認しながら、活動の見通しを持つ。その際に、すぐに答えにたどり着く問題を混ぜておくことで、ヒントの内容や提示する順番に着目し、より楽しもうとする児童の気づきや反応から学習課題を設定する。

また、発言力のある児童や語彙が豊富な児童ばかりが話してしまうことのないよう、「共感を示す」や「復唱して確かめる」など、互いの考えを大切にしながら、対話によって考えを深めていけるような話し合いについて、気づいたことを交流し、出た意見を短いキーワードにして掲示することで、常に意識して活動できるようにする。

振り返りでは、対話を通して自分の考えが深まったり変わったりしたところに線を引くことで、一人では思いつかなかったことに気づくなど、話し合うことの価値を自覚することができるようにする。

#### [視点2] 共に学び続けるための工夫

チャート図を用いて回答者の思考を可視化し、それらを操作しながらヒントの内容や提示する順番を話し合うことで、ヒントの数を増やすにつれて、少しずつ答えが絞られていくような工夫を考える。そこで、それぞれのパターンを比較したものを根拠とすることで、合意形成を重要視した話し合いができるようにする。

また、ヒントに用いた言葉を、「形」「色」「動き」「場面」などの児童の気づきをもとにした観点で分類することで、身近なものの特徴に着目した共通の語彙として認識させ、継続した活用を促していく。

#### 4 単元目標

- 事柄には特徴に相違点があることやねらいによって順序付けがあることなど、情報と情報との関係について理解することができる。 (知・技)(2)ア
- 身近なものの特徴を捉えて話題を決め、相手に伝えるために必要な事柄を選ぶことができる。 A話・聞(1)ア
- ◎ 互いの話に関心をもち、質問や相槌など相手の発言に反応しながら話をつなぐことができる。 A話・聞(1)オ
- 話し合うことよさを認識するとともに、情報と情報の相違点を意識しながら対話し、お互いが納得できるように考えをまとめようとする。 (学・人)

#### 5 指導と評価の計画(4時間取り扱い)

次	時	学習活動	教師のかかわり	評価規準 [評価方法]
一	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 指導者の出題するクイズをもとに見通しをもつ。</li> <li>○ 活動方法と約束について知る。</li> <li>○ ヒントをもとに、特徴を表す言葉について話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導者作成の「なんでしょうクイズ」を体験し、言語活動のイメージをもてるようにする。</li> <li>・ 問題の作り方やの仕方について確認する。</li> <li>・ 「形」「色」「動き」「場面」などの観点でヒントを分類することで、ものの特徴を表す言葉について着目できるようにする。</li> <li>・ 答えが同じだが、ヒントの順番が違ふ問題を提示し、回答者の思考を根拠に話し合うことで、順序の工夫に気づけるようにする。</li> </ul>	<p>知 ものの特徴を表す言葉に着目して、観点に沿って分類している。 [チャート図]</p>
	2 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ヒントの内容や順番を比べて、クイズの難易度との関係を考える。</li> </ul>	<p>〈学習課題〉 ヒントの出し方を工夫して、自分と友達のアイディアを あわせながら、『なんでしょうクイズ』を作ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ それぞれのペアに題材を配付し、ヒントの内容と順番について話し合う時間を設ける。</li> <li>・ 話し合ったヒントを紹介し、感想や気づきを共有する。</li> </ul>	<p>思 ねらいに応じて伝える内容や順番を工夫している。 [チャート図]</p>
二	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時の様子から話し合いの仕方について話し合う。</li> <li>○ 話し合いながら「なんでしょうクイズ」を作る。</li> <li>○ 役割を決めて練習をする。</li> <li>○ 話し合いの様子について話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時の話し合いの様子を動画で示し、話し合うときに気を付けることについて児童の気づきをもとにキーワードにして示す。</li> <li>・ 答えを教室にあるものに限定することで、ヒントを聞いた解答者が具体物を連想しやすくする。</li> <li>・ ペアごとにクイズを出す練習ができるように役割と流れを示す。</li> <li>・ 2時間目と3時間目の話し合いの様子を比較し、「話し合いのコツ」についてまとめる。</li> </ul>	<p>思 質問や相槌など相手の発言を受け止めながら話をして いる。[観察]</p> <p>主 自分と友達の考えの相違点を意識しながら話し合い、お互いが納得できるようにまとめようとしている。[発言]</p>
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「なんでしょうクイズ」大会を開く。</li> <li>○ 自分や友達のがんばりや工夫について気づいたことを交流する。</li> <li>○ 学んだことを振り返り、共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童を出題者と回答者に分けて、立場を変えながら「なんでしょうクイズ」大会を行う。</li> <li>・ おもしろかったところや工夫していたところなど、自分や友達のクイズを通して考えたことを交流することで、学びを深める。</li> <li>・ 学習を通して学んだことを「伝え方」「話し合い方」の視点で振り返える。</li> </ul>	<p>知 順序によって伝わり方が変わることを理解している。 [発言・ノート]</p> <p>主 自分や友達のがんばりや工夫について気づいたことを伝えようとしている。 [発言・ノート]</p>



## 6 本時の学習（2 / 4）

### （1）目標

相手を意識したヒントについて話し合うことを通して、伝えるために必要な事柄や伝える順序について考えることができる。

### （2）展開

時間	学習活動	○教師のかかわり ◆評価 [方法]	備考
5	1 前時の学習を振り返り、本時の課題を捉える。	○前時のクイズに対する印象を共有することで、学習における課題に気づき、そのことを解決することでよりよいものができそうだという見通しと、解決することへの必要感をもてるようにする。  <b>〈視点1-③〉立ち止まって振り返る場</b> ○すぐに答えがわかる問題とだんだんと答えが絞られていく問題があったことを想起し、「みんなが楽しめる問題」について、提示したヒントに着目することで、以下のような課題を設定する。	クイズ
みんなが楽しめるクイズにするために、上手なヒントを考えよう。			
10	2 2つの問題を比較する。	○順番を変えてヒントを一つずつ示し、条件に合う特徴をもつものを出し合い、比較することで、答えの候補数に差が出ることに気づけるようにする。  <b>〈視点2-①〉考えを表出し比較する場</b> ○答えは同じだがヒントが違う問題を2つ提示し、回答者がヒントごとにどのように答えを絞っていくのかについて具体物（カード）を操作しながら比較することで、ヒントの内容や順番が思考に大きく影響することをとらえられるようにする。	カード
15	3 ヒントを考える。	○クイズの題材は教師がそれぞれのペアに配付し、児童がタブレットを使って分類わけしたヒントの中から適切なものを、話し合いながら選べるようにする。  <b>〈視点2-②〉納得解を生み出す根拠や理由付けの充実</b> ○ヒントの内容や順番によって回答の選択肢が減っていくことを、タブレットを操作して視覚化することで、それぞれの考えを明確に比較することができるようにし、互双方の納得解を生み出せるようにする。	タブレット チャート図
10	4 考えたヒントを紹介する。	◆答えがだんだんと絞られるようにヒントの内容や順番を工夫している。[発言・ノート] ○児童が考えたヒントでクイズを解いてみて、気づきや感想について交流し、工夫の共有化を図る。	
5	5 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	○本時で共有した学びをキーワードにすることで、次回からの話し合いの視点として活用できるようにする。	

## 【2年（読むこと）】

大事な言葉に気をつけて読み、『楽しいおにごっこ教えちゃうよ！ブック』を作ろう（「おにごっこ」）

指導者 松岡 さゆり（甲佐町立白旗小学校）

視点1 学びを自覚するための手立て

視点2 共に学び続けるための工夫

### 学びの土台

これまで：時間や事柄の順序を考えながら読み、文章の大体をとらえる

これから：「問い」に対する「答え」にあたる大事な言葉を見つけて、その理由や工夫を選び、分かったことを伝える

### 学習課題

文章と経験を結び付けて、遊び方の理由や工夫を選んで、友達に『楽しいおにごっこ教えちゃうよ！ブック』で紹介しよう！

#### 指導事項

文章の中の重要な語や文を考えて選  
び出すこと C読むこと（1）ウ

#### 思考操作

文章の内容と経験を共通点、相違点  
で結び付ける

### 言語活動

「楽しいおにごっこ教えちゃうよ！  
ブック」を作る

#### <立ち止まって振り返る場>

子どもたちの経験から楽しさの概念を想  
起させ、教科書にあるおにごっこの中  
で「1番楽しいおにごっこ」について考  
えるという本時の課題を設定する。

#### <考えを表出し比較する場>

本文にある四つのおにごっこについて選んだもの  
をロイロノートの色カードを使い、自分の立場を  
示す。また、「1番楽しい」という視点で選ぶこと  
を通して、それぞれのおにごっこの共通点や相違  
点、特徴を整理し捉えられるようにする。

言葉による  
見方・考え方を  
働かせる

#### <納得解を生み出す根拠や理由づけの充実>

全体での話し合いの中で、自分たちの経験や筆者が述べていることを基に、問い返し  
ながら遊び方の価値について理解を深め、一人一人が言葉への自覚を高めながら、納  
得解を生み出すことができるようにする。

### 本単元で目指す子どもの姿

文章と自分の経験を結び付けながら大事な言葉を選び出し、分かったことや伝えたいこ  
とを具体的に説明しようとする子ども。

単  
元

本  
時

## 第2学年1組 国語科学習指導案

指導者 甲佐町立白旗小学校 松岡 さゆり

- 1 **単元名** 大事な言葉に気を付けて読み、『楽しいおにごっこ教えちゃうよ！ブック』を作ろう 「おにごっこ」(光村図書2年)
- 2 **学習課題** 文章の内容と経験を結び付けて、遊び方の理由や工夫を読み取り、『楽しいおにごっこ教えちゃうよ！ブック』を作ろう。
- [指導事項] 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができるようにする。  
C読むこと(1)ウ
- [思考操作] 文章の内容と経験を共通点、相違点で結び付ける。
- [言語活動] 『楽しいおにごっこ教えちゃうよ！ブック』を作る。

### 3 単元について

#### <教材観>

本教材の特徴としては次の通りである。

- ・鬼ごっこは児童の知識や体験と直結して考えを深めていきやすい。
- ・はじめ(話題提示)―中(事例の列举)―終わり(まとめ)の尾括型の文章構成である。
- ・「遊び方」と「その遊びをする理由」がセットで説明されており、鬼側と逃げる側の両方の立場から説明されている。

以上の特徴から、鬼ごっこの「遊び方」を表す大事な言葉を見つけて理由やその工夫を読み取ることができる教材であると言える。それらを考えていく際に、子ども同士が教材の内容と自分たちの体験とを結び付けて感想を持ち、伝え合うことが期待される。そのような学びを生み出すために、『楽しいおにごっこ教えちゃうよ！ブック作り』という言語活動を核にした単元を構想する。

#### <児童観>

子どもたちは、これまで2年「たんぼのちえ」や「どうぶつ園のじゅうい」などで時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えたり、重要な語や文を考えて選び出したりすることを経験している。

そのような学習を通して、時間や事柄の順序に関わって重要になる語や文を見つけることについては、ほとんどの子どもができるようになってきている。しかし、読み手として必要な情報を適切に見つける上で重要な語や文を考えて選び出す子どもはまだ少ない。

#### <視点について>

##### [視点1] 学びを自覚するための手立て

第一次においては、実際におにごっこをして遊んだ経験を思い出させ、どんなおにごっこなのか、その時の感想などを共有していく。その上で教材文以外の教師が作成した「おにごっこ」の言語活動モデルを示し、自分たちが知らない「おにごっこ」について興味を持たせ、1年生に紹介して一緒に遊ぶ計画を立てる単元のゴールを示す。その際、既習教材の「どうぶつ園の赤ちゃん」や「どうぶつ園のじゅうい」で学んだ説明文の「初め・中・終わり」構造や、「問いと答え」、比べ読みについて、既習事項を想起しながら、これまでの学びと本単元での学びがどのようにつながっているかを自覚できるようにしていく。さらに、『楽しいおにごっこ教えちゃうよ！ブック』を作るために必要な視点や考え方について教材文をもとに話し合わせながら、上記のような学習課題を設定していく。

第二次においては、「どんな遊び方があるのか」「なぜ、そのような遊び方をするのか」「どこから考えたのか」等、自らの学習を振り返る場を設定する。その振り返りを共有する場を授業の導入や終末等で設け、それぞれの考え方のよさを問うたり、教師が価値づけたりすることで、学びの価値を自覚できるようにしていく。

##### [視点2] 共に学び続けるための工夫

おにごっこの遊び方を整理する際に、どの言葉に着目すると遊び方が分かるのか、おもしろさが分かるのかを、大事な言葉を使って、自分の言葉で短くまとめさせる。また、自分たちで遊び方を考え、工夫した経験を想起させながら、どの段落の遊び方と似ているかを比較検討することで鬼ごっこの遊び方をグループ化していく場を設定する。

#### 4 単元の見通し

- 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。 (知・技) (3) エ
- ◎ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。 C読 (1) ウ
- 文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。 C読 (1) カ
- 文章を読んで感じたことや分かったことを進んで共有し、学習の見通しをもって、本を読んで分かったことを説明しようとする。 (学・人)

#### 5 指導と評価の計画 (12時間取り扱い)

次	時	学習活動	教師のかかわり	評価規準 [評価方法]	
一	1	○おにごっこの楽しさについて感想を交流する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんなおにごっこなのか、おにごっこをしてみようかについて出し合うようにする。</li> <li>・おにごっこを分類し、「楽しさ」の概念を決めておく。</li> </ul>		
	2	○楽しいおにごっこについて分かったことを知らせるといふ単元の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が作成した「おにごっこ」の言語活動モデルを示し自分たちが知らない「おにごっこ」について興味を持てるようにする。</li> </ul>		
		<b>〈学習課題〉</b> 文章の内容と経験を結び付けて、遊び方の理由や工夫を読み取り、『楽しいおにごっこ教えちゃうよ!ブック』を作ろう。			
二	3 本時	○教材文を読んで事例を確認し、整理する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文にある四つのおにごっこについて比較することで、それぞれの共通点や相違点、特徴を整理できるようにする。</li> </ul>	<b>思</b> 遊び方とその遊び方の理由、おもしろさについて、必要な情報を探したり大事な言葉を考えたりしてまとめている。 [シート]	
	4	○筆者が伝えたいことを6段落から読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習教材の「問い・具体例・答え」構造を思い出させ、第1段落の問いに対する答え(筆者の思い)に気づくようにする。</li> </ul>		
	5 6	○遊びの説明のしかたを確かめながら、本文をくわしく読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四つのおにごっこについて、遊び方とその理由を言葉と絵で表にまとめ、きまりを短い言葉で表現できるようにする。</li> </ul>		<b>思</b> 本を読んで分かったことをまとめて、共有している。 [シート]
三	7 8	○おにごっこについて本を読んで調べ、紹介する遊び方を決める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「みんなが楽しめる遊び方」には他にどんなものがあるか等の視点で紹介したいおにごっこを決定できるようにする。</li> </ul>	<b>知</b> いろいろなおにごっこについて書かれた本から説明したい遊び方を探し、読んでみる。 [観察]	
	9 10 11	○述べ方の工夫を生かして、遊び方の紹介を書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「遊び方」と「その遊びをするわけ」を接続詞を使って、相手に分かるような紹介文を書くためのワークシートを活用できるようにする。</li> </ul>		<b>思</b> 本を読んで分かったことをまとめて、共有している。 [シート]
	12	○1年生に遊び方を紹介し、紹介の仕方のよさを交流する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実際に遊びをしてみることで、伝わったかどうかを確認する手立てにする。</li> </ul>		<b>主</b> 目的を持って読み、分かったことを相手に伝えるように説明しようとしている。 [観察・発言]

## 6 本時の学習（3 / 12）

### （1）目標

「1番楽しいおにごっこ」という視点で選ぶことを通して、四つの遊び方の共通点、相違点を捉え、遊び方の特徴の大体を読むことができる。

### （2）展開

時間	学習活動	○教師のかかわり ◆評価〔方法〕	備考
10	1 前時の学習を振り返り、本時の課題を捉える。	<p>○自分たちが経験した「楽しいおにごっこ」について思い出させ、「楽しいおにごっこ」とは鬼側逃げる側両方にメリットがあるという概念を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>〈視点1-③〉立ち止まって振り返る場</b></p> <p>○子どもたちの経験から、鬼側・逃げる側両方にメリットがあることが「楽しさ」だという概念を想起させ、教科書に提示してあるおにごっこの中で「1番楽しいおにごっこ」について考えるという学習課題を設定する。</p> </div>	挿絵
<p>四つのおにごっこの中で1番楽しいおにごっこはどれだろう。</p>			
20	2 1番楽しいおにごっこを選び、その理由を考え、話し合う。	<p>○おにごっこ①②③④がどんな遊び方なのか、なぜその遊び方をするのか等、教材文の根拠となる大事な言葉に着目している発言を価値づけ、4種類のおにごっこに対する読みが深まるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><b>〈視点2-①〉考えを表出し比較する場</b></p> <p>○本文にある四つのおにごっこについて1番楽しいおにごっこを選ぶことを通して、それぞれのおにごっこの共通点や相違点、特徴を整理し、とらえられるようにする。自分と立場が違う人と意見を交流し、「なぜそれを選んだのか」「どうしてなのか」を検討し合い、言葉による見方・考え方を働かせていく。</p> </div>	シート 名前カード タブレット
10	3 それぞれのきまりは「おに側」「逃げる側」どちらの立場で考えられたものか検討する。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><b>〈視点2-②〉納得解を生み出す根拠や理由付けの充実</b></p> <p>○全体での話し合いの中で、自分たちの経験や筆者が述べている「おにになった人も、にげる人も、みんなが楽しめるように、くふうされてきたのです。」の文を基に問い返しながら遊び方の価値について理解を深め、一人一人の言葉への自覚を高めながら、納得解を生み出すことができるようにする。</p> </div>	
5	4 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	<p>◆四つのおにごっこの特徴を捉え、選んだ理由を生活経験と教材文から書いている。 〔発言・ワークシート〕</p> <p>○次の学習にどのように取り組むか見通しをもてるようにする。</p>	

## 【4年（話すこと）】

話の中心が伝わる発表の仕方を使って、調べたことを学級の人々に発表しよう（「調べて話そう、生活調査隊」）  
指導者 北島 智博（玉名市立小天小学校）

視点1 学びを自覚するための手立て

視点2 共に学び続けるための工夫

### 学びの土台

これまで：相手や目的に合う理由や資料を選び、工夫して話す  
これから：調べたことを、資料を見せながら、聞く人に分かりやすく話す

### 学習課題

「資料の使い方」や「話し方」に着目して話し合い、話の中心が伝わる発表の仕方を工夫して、調べたことを学級の人々に発表しよう。

#### 指導事項

話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと  
A話すこと・聞くこと(1)ウ

#### 思考操作

「資料の使い方」「話し方」の二つの視点に着目して話し合う

### 言語活動

調べたことを学級の人々に発表する

#### <立ち止まって振り返る場>

学びのプロセスや有用感を自覚できるように、「友だちの発言でわかったこと」「学習課題につながることを振り返ることができるようにする。

#### <考えを表出し比較する場>

二つの動画を比べて、どちらの発表がよかったか、考えを赤・青で表出できるようにする。そして、その理由を話し合うことで話の中心が伝わる発表の工夫を考えることができるようにする。

言葉による  
見方・考え方を  
働かせる

#### <納得解を生み出す根拠や理由づけの充実>

話の中心を伝えるために、①資料を見せながら話す ②間の取り方 ③声の強弱 の三つの視点で自分たちの発表をレーダーチャートで評価し、発表をよりよくできるように話し合うことで、納得解を生み出せるようにする。

### 本単元で目指す子どもの姿

委員会や係活動などで伝えたいことがある時に、話の中心が伝わるように工夫し、調べたことを聞く人にわかりやすく伝えようとする子ども。

単元

本時

# 第4学年1組 国語科学習指導案

指導者 玉名市立小天小学校 北島 智博

- 1 単元名 話の中心がわかる発表の仕方を使って、調べたことを学級のみんに発表しよう  
「調べて話そう、生活調査隊」(光村図書4年)
- 2 学習課題 「資料の使い方」や「話し方」に着目して話し合い、話の中心が伝わる発表の仕方を工夫して、調べたことを学級のみんに発表しよう。

[指導事項] 話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができるようにする。A 話すこと・聞くこと(1)ウ

[思考操作] 「資料の使い方」や「話し方」に着目して話し合う。

[言語活動] 調べたことを学級のみんに発表しよう。

## 3 単元について

### <教材観>

本教材の特徴としては次の通りである。

- ・子どもが話の中心や場面を意識して、相手にわかりやすい話し方を獲得できる教材である。
- ・調べたことを報告する活動は他教科と連携を図ることができ、子どもたちの興味関心が高いと考えられる。
- ・調べたことを加工しグラフや表を作成するといった学習経験は、発信者の目的や意図を重視していく学習の基盤となる。

以上の特徴から、話の中心が伝わる話し方を考えることができ、調べたことを目的に応じて資料として加工処理することができる教材であると言える。そのような学びを生み出すために、調べたことを学級のみんに発表しようという言語活動を核にした単元を構想する。

### <児童観>

子どもたちは、これまで3年「わたしたちの学校じまん」で、話の中心が明確になるように、理由や事例を挙げながら話の構成を考え話すことを学んできている。しかし、目的や場などを意識し話し方を工夫する子どもはまだ少ない。言葉の抑揚や強弱、間の取り方、グラフや表などを使った話し方等の具体的な工夫の仕方については学んできていない。

### <視点について>

#### 〔視点1〕 学びを自覚するための手立て

学びのつながりを自覚するために、既習教材の3年「わたしたちの学校じまん」での学習を振り返る。今までの学習では、相手や目的を考え理由をあげて話をしたり資料を使って話をしたりすることを学んできている。そのことを土台としながら、話の中心が伝わる話し方の視点として「資料の使い方」「話し方(声の大きさ、間のとり方、声の強弱、話す速さ)」があることを確認できるようにする。

学習課題を設定する場面では、生活の中で水を大切に使うことやゴミのリサイクルを促すことを学級のみんに発表するという目的を明確にする。総合的な学習の時間や社会科で学習していることとも関連させ、学びの有用感や連続性が意識できるようにする。

立ち止まって振り返る場の設定では、学びのプロセスや有用感を自覚できるように、「友だちの発言でわかったこと」「学習課題につながることを振り返ることができるようにする。

#### 〔視点2〕 共に学び続けるための工夫

本時において、二つの動画を比べて、どちらの発表がよかったか、赤・青で考えを表出し話し合うことができるようにする。話し合いの中で、話の中心が伝わる発表の工夫を、①資料を見せながら話す ②間の取り方 ③声の強弱と整理する。そして、それらの視点を使い、自分たちの発表をレーダーチャートで評価できるようにし、発表の工夫に生かしていけるようにする。

#### 4 単元目標

- 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。 (知・技) (1) イ
- 目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。 (思A) (1) ア
- 相手に伝わるように理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができる。 (思A) (1) イ
- ◎ 話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫することができる。 (思A) (1) ウ
- 粘り強く、話し方を工夫し、学習課題に沿って考えをまとめようとする。 (学・人)

#### 5 指導と評価の計画 (8時間取り扱い)

次	時	学習活動	教師のかかわり	評価規準 [評価方法]
一	1	○単元名と学習課題を確認し、単元の見通しをもつ。	・総合的な学習の時間や社会科での学習と関連付け、学習課題の設定を行う。	
		<b>〈学習課題〉</b> 「資料の使い方」や「話し方」に着目して話し合い、話の中心が伝わる発表の仕方を工夫して、調べたことを学級のみんに発表しよう。		
		○題材を考える。	・グループで調べたいことについて話し合い、題材を決める。 ・今までに学習した話す聞くの学習を想起する活動や教科書教材の動画を通して学習計画を立てる。	<b>思</b> 自分たちの生活に関連する題材を選んでいる。 [ワークシート・発言]
二	2	○表やグラフ、アンケートの方法を確認し、グループ毎にアンケートを作成する。	・アンケートでは、最終的なデータの処理や表現の方法まで考えておくことを伝える。 ・話の中心を考えながらアンケートを作成するように促す。	<b>思</b> 話の中心を考えてアンケートを作成している。 [ワークシート]
	3	○アンケートを集計し、集計結果を基に発表用の資料を作成する。	・集計結果を、グラフや表でまとめるようにする。	<b>思</b> 自分の発表に生かせる資料を選び、工夫している。 [ワークシート]
	4	○グループごとに原稿の作成を行い、発表の練習をする。	・教科書を参考に、発表の組み立てや発表原稿を作成できるようにする。 ・発表の練習では自分たちの発表をタブレットで録画できるようにする。	<b>思</b> 話の中心がわかる構成を考え発表原稿を作成している。 [ワークシート]
	5 本時	○発表の工夫を捉え、自分たちの発表に生かす。	・二つの動画を比べて、話の中心が伝わる発表の工夫を捉えることができるようにする。 ・捉えた発表の工夫を自分たちの発表に生かせるように、グループで活動ができるようにする。	<b>思</b> 話の中心が伝わる工夫をして、自分たちの発表をよりよくしようとしている。 [ワークシート]
	6	○グループの発表の練習をする。	・グループ毎に発表の練習が行えるようにする。	
三	7	○発表会をし、感想を伝え合う。	・発表会では、発表の工夫の視点を意識して他グループの発表を聞くことができるようにする。	<b>知</b> 獲得した発表の仕方の工夫を意識して発表している。 [発言]
	8	○単元を振り返り、身につけた力を確認する。	・単元全体で学んだ身につけた力を振り返る。	<b>主</b> 粘り強く、学習課題に沿って発表を工夫している。 [ワークシート]



## 6 本時の学習（5／8）

### （1）目標

話の中心が伝わる工夫を考える活動を通して、グループの発表に生かすことができる。

### （2）展開

時間	学習活動	○教師のかかわり ◆評価 [方法]	備考
5	1 前時の学習を振り返り、本時の課題を捉える。	○前時での学習を振り返り、発表の仕方でうまくいかなかったところを共有し、発表の仕方が課題であることを自覚できるようにする。	
話の中心が伝わる発表の工夫を考えよう。			
20	2 教師が作成した動画を比べて、発表の工夫を考える。	○「教科書 P115 発表の例の原稿」を基に教師が作成した動画を二つ提示する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><b>〈視点2-①〉考えを表出し比較する場</b></p> <p>○二つの動画を比べて、どちらの発表がよかったか赤・青で考えを表出できるようにする。そして、その理由を話し合うことで話の中心が伝わる発表の工夫を考えることができるようにする。</p> </div> <p>○既習事項を基に、新たに獲得する発表の工夫として、            ①資料を見せながら話す            ②間の取り方            ③声の強弱            の三つを整理し、話の中心を意識して発表の工夫を行うことを確認する。</p>	動画資料
15	3 グループで自分たちの動画を見直す。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><b>〈視点2-②〉納得解を生み出す根拠や理由付けの充実</b></p> <p>○話の中心を伝えるために、①資料を見せながら話す ②間の取り方 ③声の強弱の三つの視点で自分たちの発表をレーダーチャートで評価し、発表をよりよくできるように話し合うことで、納得解を生み出せるようにする。</p> </div> <p>○自分のグループの発表を個人で評価する。そして、レーダーチャートを見せ合いながら、話の中心が伝わる工夫について話し合うことができるようにする。            ◆話の中心が伝わる工夫をして、自分たちの発表をよりよくしようとしている。</p> <p style="text-align: right;">[ワークシート]</p>	以前自分たちが撮った動画 タブレット
5	4 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>〈視点1-③〉立ち止まって振り返る場</b></p> <p>○学びのプロセスや有用感を自覚できるように、「友だちの発言でわかったこと」「学習課題につながること」を振り返ることができるようにする。</p> </div> <p>○振り返りはタブレットを用いて行う。単元を通して、振り返りが蓄積できるシートを使い、学びの連続性や自分の学びが意識できるようにする。</p>	タブレット

## 【5年（読むこと）】

すぐれた表現に着目して読み、物語のみりよくをまとめよう（「大造じいさんとがん」）

指導者 中島 高義（阿蘇市立一の宮小学校）

視点1 学びを自覚するための手立て

視点2 共に学び続けるための工夫

### 学びの土台

これまで：場面の移り変わりと結び付けて、登場人物の心情の変化や性格、情景を想像する  
これから：人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする

### 学習課題

表現の工夫や効果に着目しながら、人物像や物語の全体像をとらえ、物語のみりよくをリーフレットにまとめよう。

#### 指導事項

人物像や全体像を具体的に想像したり表現の効果を考えたりすること  
C 読むこと（1）エ

#### 思考操作

作品の魅力を高めている表現の工夫や効果に着目して読む

### 言語活動

物語の魅力をリーフレットにまとめ、友達と交流する。

#### <立ち止まって振り返る場>

「どこで大造じいさんの残雪に対する気持ちが変わったのか」などの子どもたちの疑問を、初発の感想や問いを生み出す場面から引き出し、本時の課題を設定する。

#### <考えを表出し比較する場>

心情の変化を表す図を示し、その中に児童の考えを整理することで互いの考えの違いに気付かせ、話し合いたいという意欲を高められるようにする。

言葉による  
見方・考え方を  
働かせる

#### <納得解を生み出す根拠や理由づけの充実>

大造じいさんの心情が大きく変化した理由について、叙述に基づいた根拠や理由づけにこだわった話し合いを展開することで、一人一人が言葉への自覚を高めながら納得解を生み出すことができるようにする。

### 本単元で目指す子どもの姿

物語を複数の視点から読み味わいながら作品の魅力を見出し、感じたことや考えたことを友達と進んで伝え合おうとする子ども。

単元

本時

# 第5学年1組 国語科学習指導案

指導者 阿蘇市立一の宮小学校 中島 高義

1 単元名 すぐれた表現に着目して読み，物語のみりよくをまとめよう  
「大造じいさんとがん」（光村図書5年）

2 学習課題 表現の工夫や効果に着目しながら，人物像や物語の全体像をとらえ，  
物語のみりよくをリーフレットで伝えよう。

[指導事項] 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたり  
することができるようにする。 C読むこと（1）エ

[思考操作] 作品の魅力を高めている表現の工夫や効果に着目して読む。

[言語活動] 物語の魅力についてまとめ，リーフレットを作る。

## 3 単元について

### <教材観>

本教材の特徴は，次の通りである。

- ・前語りから始まり，本編（過去の出来事）へ続くという構成となっている。
- ・人物の行動や会話，豊かな情景描写から心情やその変化を読み取ることができる。
- ・残雪の行動や姿が，中心人物である大造じいさんの心情を大きく変化させていく。

以上の特徴から，人物像や物語の全体像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりすることに適した教材であると言える。特に高学年では，中心人物の心情の変化をもとに作品の主題に迫らせることが大切である。そのような学びを生み出すために，「作品の魅力をリーフレットにまとめて友達と伝え合う」という言語活動をゴールとして設定し，単元を構想する。

### <児童観>

子どもたちは，これまで4年「ごんぎつね」や5年「なまえつけてよ」などで登場人物の相互関係や心情の変化を捉えたり，表現の効果を考えたりすることを経験し，その知識を生かして物語を読み味わうことが少しずつできるようになってきている。しかし，物語を読み味わう上で重要となる「表現技法」「中心人物の心情の変化」「主題」などの指導事項については，自ら活用できる知識にはまだなっていない。

### <視点について>

#### [視点1] 学びを自覚するための手立て

第一次においては，既習教材の「ごんぎつね」を使って物語文の既習事項を想起させる。その際，物語の五つの視点（設定，視点，表現技法，心情の変化，主題）について押さえる。この五つの視点を使ってこれから作品を読んでいくことを確認するとともに，学習課題を設定したり学習計画を立てたりする際の拠り所としても活用する。

第二次においては，各授業を五つの視点毎に分けて進めることで学習内容を焦点化する。これによって読みが苦手な子どもにとっても分かりやすい授業を展開し，その時間で何を学習したのかを，まとめや振り返りを通して自覚できるようにする。

#### [視点2] 共に学び続けるための工夫

一人学びの時間を必ず設けることで，自分の考えをもつことができるようにする。また，自分の考えを持つときにはその根拠となる叙述を明らかにしたり，考えに説得力を持たせる理由付けをしたりすることを促す。さらに，持てた考えをもとに，ペアやグループ，全体での話し合いに広げ，交流をとおして考えを深められるようにする。その際，子どもたちの考えを図や表にして可視化したり，構造的な板書を工夫したりすることで，考えを分類，整理，比較したり，物語の全体像や心情の変化の様子を把握したりできるようにする。

#### 4 単元の見どころ

- 比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。 (知・技) (1) ク
- ◎ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。 C読 (1) エ
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。 C読 (1) オ
- 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 (学・人)

#### 5 指導と評価の計画 (9時間取り扱い)

次	時	学習活動	教師のかかわり	評価規準 [評価方法]
一	1	○「五つの視点」を理解し、単元の見通しをもつ。	・「ごんぎつね」をもとに「五つの視点」を理解させ、単元のゴールを設定する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <b>〈学習課題〉</b> 表現の工夫や効果に着目しながら、人物像や物語の全体像をとらえ、物語のみりよくをリーフレットにまとめてよう。         </div>				
	2	○教材文を読んで内容の大体を捉え、視点に沿って初発の感想を書く。 ○学習課題達成のために、どんな問いを解決していくかを話し合う。	・物語を読む際の視点(物語の設定や表現技法、心情の変化など)も参考にしながら、初発の感想を書けるようにする。 ・学習計画を示し、「リーフレットにまとめる」(ゴール)までの見通しをもたせる。	<b>思</b> 「ごんぎつね」で振り返ったことをもとにしながら、初発の感想を書いている。 [シート・発言]
二	3	○物語の設定を読み取り、表にまとめる。	・作品の設定を表にまとめることで、作品の全体像を視覚的に捉えられるようにする。	<b>思</b> 作品の設定を表にまとめている。 [シート]
	4	○会話文の変化から中心人物の心情を読み取る。	・センテンスカードを並べ替え、会話に変化するきっかけに着目させることで、大造じいさんの心情の変化に気付けるようにする。	<b>思</b> 会話文の変化から、中心人物の心情を読み取っている。 [シート・発表]
	5	○情景描写とは何かを知り、作品中の情景描写を探して中心人物の心情を読み取る。	・情景描写の文の必要性を話し合わせることで、情景描写の効果や大造じいさんの心情に気付けるようにする。	<b>知</b> 情景描写に着目し、その表現から登場人物の心情を考えている。 [シート・発表]
	6 本 時	○山場における中心人物の行動について考え、中心人物の心情の変化をまとめる。	・大造じいさんの行動について話し合い、それを時系列の図に表すことを通して心情の変化を捉えられるようにする。	<b>思</b> 大造じいさんの心情の変化を、一文で書き表している。 [シート・発表]
	7	○結末部の中心人物の行動を見つめ、作品の主題について話し合う。	・結末部での大造じいさんの行動を評価することを通して、作品の主題を自分なりに考えられるようにする。	<b>思</b> 作品の主題について、自分の考えを書き表している。 [シート・発表]
三	8	○作品の魅力についてリーフレットにまとめる。	・これまでに学習したことをもとに、作品の魅力がリーフレットにまとめるようにする。	<b>主</b> 魅力を感じた場面や言葉をはっきりとさせ、まとめたことを友達と伝え合っている。 [リーフレット]
	9	○リーフレットを見合い、身に付けた力を振り返る。		

## 6 本時の学習（6／9）

### （1）目標

中心人物の心情を図に表し、その変化のきっかけを考えることを通して、心情の変化を自分の言葉でまとめることができる。

### （2）展開

時間	学習活動	○教師のかかわり ◆評価 [方法]	備考
7	1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。	○センテンスカードの並び替え(クイズ)を通して心情の変化を視覚的に捉えさせ、その変化がどこで起きたのか(きっかけ)に意識を焦点化できるようにする。  <b>〈視点1-③〉立ち止まって振り返る場</b> ○「どこで大造じいさんの残雪に対する気持ちが変わったのだろうか」などの子どもたちの疑問から、本時の課題を設定する。	センテンスカード  ロイロノート
大造じいさんの心情は、何をきっかけにしてどのように変わっていったのだろうか。			
2 3	2 図を使って中心人物の心情の変化を捉える。  (1) 心情の変化をもたらしたものが何かについて考える。(一人学習び)  (2) 考えを伝え合う。(ペア・全体)	<b>〈視点2-①〉考えを表出し比較する場</b> ○図を使って考えを可視化し、それぞれの子どもの考えを比較できるようにする。  ○第3場面の(山場)の叙述に着目させながら、きっかけに当たる部分にサイドラインを引かせる。選んだ根拠や理由付けも書き加えることで、自分の意見をはっきりと主張できるようにする。  <b>〈視点2-②〉納得解を生み出す根拠や理由付けの充実</b> ○大造じいさんの心情が大きく変化した場面について、その根拠や理由付けにこだわった話し合いを展開することで、一人一人が言葉への自覚を高めながら納得解を生み出すことができるようにする。	心情変化の図  教科書ワークシート
8	3 心情の変化を自分の言葉でまとめる。	○「はじめは～と思っていた大造じいさんが、～をきっかけにして、終わりには～と思うようになった。」という表現の形を示し、本時の学習を生かして自分の言葉でまとめられるようにする。 ◆大造じいさんの心情の変化を書いて表している。 [シート・発表]	ワークシート
7	4 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	○ 本時で感じた作品の魅力(言葉や文、文章、書きぶり等)を振り返ることで、まとめのリーフレットに生かすことができるようにする。	ワークシート

## 【6年（書くこと）】

伝えたいことを明確にして書こう 未来の自分へ『思い出アルバム』（「思い出を言葉に」）  
指導者 藪 沙代子（八代市立八代小学校）

視点1 学びを自覚するための手立て

視点2 共に学び続けるための工夫

単元

### 学びの土台

これまで：書き表し方を工夫し、自分の考えが伝わるよう書く  
これから：材料を整理したり形式や表現を選んだりして、伝えたいことを明確にして書く

### 学習課題

集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にして書き、未来の自分へ『思い出アルバム』を残そう。

#### 指導事項

目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること  
B書くこと(1)ア

#### 思考操作

集めた材料を分類したり関係付けたりする

### 言語活動

未来の自分へ残す『思い出アルバム』を作る

#### <立ち止まって振り返る場>

どのようにして自分の伝えたいことを明確にしていったか、誰のどんな言葉で考えが変わったり深まったりしたか振り返らせるようにする。

#### <考えを表出し比較する場>

タブレット端末を使って、児童と交流し、どの出来事に注目して、どんな意味付けや価値付けをしたか説明し合ったり、意見を言い合ったりできるようにする。

言葉による  
見方・考え方を  
働かせる

#### <納得解を生み出す根拠や理由づけの充実>

友達と話し合ったことを基に、自分のイメージマップを改めて見直し、テーマについて再考したり、材料を付け加えたりして、一人一人が言葉への自覚を高めながら納得解を生み出すことができるようにする。

本時

### 本単元で目指す子どもの姿

集めた材料を整理したり、言葉を選んだりして、伝えたいことを明確にしなが、俳句や短歌、詩などに自分の思いを表現しようとする子ども。

# 第6学年1組 国語科学習指導案

指導者 八代市立八代小学校 藪 沙代子

- 1 単元名 伝えたいことを明確にして書こう 未来の自分へ『思い出アルバム』  
「思い出を言葉に」(光村図書6年)
- 2 学習課題 集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にして書き、未来の自分へ『思い出アルバム』を残そう。

[指導事項] 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。 B書くこと (1)ア

[思考操作] 集めた材料を分類したり関係づけたりする。

[言語活動] 『思い出アルバム』を作る。

## 3 単元について

### <教材観>

本教材の特徴としては次の通りである。

- ・これまでの学校生活の中で一番印象に残っている出来事を題材としている。
- ・選んだ出来事が自分にとってどんな意味や価値があるのか考え、伝えたいことを明確にすることができる。
- ・伝えたいことに合う俳句、短歌、詩といった比較的短い表現形式を自分で選択できる。

以上の特徴から、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる教材であると言える。

自分や友達の作った作品を一冊のアルバムにし、未来の自分へのメッセージとなるよう『思い出アルバム』を作るという言語活動を核に単元を構想する。

### <児童観>

これまで子どもたちは日常生活で感じたことや考えたことを題材とし、俳句や短歌、詩を書く活動をしてきている。繰り返しや反復、比喩などの表現方法を使うことでより効果的に伝わることを経験してきている。

しかし、語彙力に個人差があり、自分の感じたことや考えたことを言葉で表現することを苦手としている子どもも多い。また、考えを整理し、伝えたいことを明確にして書くことを苦手としている子どももいる。

### <視点について>

#### [視点1] 学びを自覚するための手立て

第一次では、モデルとなる『思い出アルバム』をもとに、未来の自分へ今の自分の思いを届けるという言語活動のイメージを持たせるようにする。これまで、子どもは日常生活での出来事を題材とし、感じたことや考えたことを俳句や短歌、詩に表現する学習をしてきている。短い言葉で表現するには、自分の伝えたいことを明確にする必要性や、比喩や反復などの表現を工夫してきたことを想起させ、単元の学習課題を設定していく。

第二次では、「どのようにして課題を解決していったか。」「どんな言葉に着目して、考えを明確にしたり表現を工夫したりしたか。」「役に立った友達の考え」等、自らの学習を振り返る場を設定する。その振り返りを共有する場を授業の導入や終末で設け、それぞれの考え方のよさを問うたり、教師が価値づけたりすることで、学びの価値を自覚できるようにしていく。

#### [視点2] 共に学び続けるための工夫

印象に残った出来事を詳しく思い出させる際には、タブレット端末のイメージマップを使って書く材料を集め、自分にとっての意味や価値について明確にしていく。自分の考えを可視化することで、友達との考えの違いに気付き、なぜそれを選んだのか、何を根拠にしているのかなど話し合う場を設定する。自分のテーマを短い言葉で表現したり、比喩や反復などの表現方法を使いながら言葉を選んだりする場面では、自分の思いが伝わるよう友達との対話を通して納得解を模索していく。なぜその言葉を選んだのか、その言葉でいいのかなど、「言葉への見方・考え方」を働かせ、言葉にこだわり吟味することで、自分の作品へと生かしていけるようにする。

#### 4 単元の見目

- 比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。 (知・技) (1) ク
- 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選り、伝えたいことを明確にすることができる。 B書 (1) ア
- 言葉がもつよさを認識するとともに、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。 (学・人)

#### 5 指導と評価の計画 (7時間取り扱)

次	時	学習活動	教師のかかわり	評価規準 [評価方法]
一	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小学校生活をふり返り、印象に残った出来事を出し合う。</li> <li>○ モデルの『思い出アルバム』をもとに単元の見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予想される出来事の写真を用意しておき、なぜ印象に残っているか出来事に対する自分なりの思いがあることに気づかせる。</li> <li>・ これまで学習してきたことを生かしながら俳句や短歌、詩などの形式で表現し、未来の自分へ今の自分の思いを届けるという言語活動のイメージをもてるようにする。</li> </ul>	
<p>〈学習課題〉集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にして書き、未来の自分へ『思い出アルバム』を残そう。</p>				
二	2	○ 印象に残っている出来事を詳しく思い出し、書く材料を集める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分や周りの人がしたこと、交わした言葉やその時の思いなど、タブレット端末のイメージマップに書き出すようにする。</li> </ul>	<p><b>思</b>印象に残っている出来事とそれに対する意味や価値を書き出し、伝えたいことを明確にしている。</p> <p>[イメージマップ]</p>
	3 本時	○ 選んだ出来事に対する自分にとっての意味や価値を考え、最も伝えたいことを明確にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選んだ出来事に対する自分にとっての意味や価値を短い言葉で表現したり、友達との対話を通して意味や価値を再考したり、材料を整理したりして、伝えたいことを明確にできるようにする。</li> </ul>	
	4	○ 伝える内容に合った表現形式を選び、簡単な文章にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 俳句や短歌・詩などの形式や特徴を確認する。</li> <li>・ 自分のテーマが伝わるよう、丁寧に文章化するよう伝える。</li> </ul>	<p><b>思</b>伝えたいことを表現するのに適した形式を選んでいる。</p> <p>[シート、振り返り]</p>
	5	○ 表現を工夫して、選んだ形式にまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 比喩や反復、語順など、伝えたいことが効果的に伝わるよう表現を工夫させる。</li> </ul>	<p><b>知</b>比喩や反復、語順などどのような表現の工夫をすると効果的か理解している。[振り返り]</p>
	6	○ 友達と読み合っ、推敲して清書する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読んでどんな思いが伝わってきたかを交流し、修正する場所を見つけさせる。</li> </ul>	<p><b>主</b>伝えたいことを明確にすることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもって書こうとしている。</p> <p>[シート・振り返り]</p>
三	7	○ 仕上げた作品をクラス全体で読み合っ、感想を伝える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 互いの表現のよさを中心にして感想交流することで、自分の作品のよさに気づかせる。</li> <li>・ 伝えたいことを明確にするためにどのような学習をしてきたのかを振り返らせ、今後にかかしていくようにする。</li> </ul>	<p><b>思</b>書いた作品を読み合、感想や意見を伝え合っ自分の作品のよいところを見つけている。</p> <p>[シート・振り返り]</p>



## 6 本時の学習（3／7）

### （1）目標

選んだ出来事に対する意味や価値を短い言葉で書き出して整理することを通して、何を中心にして書くか伝えたいことを明確にすることができる。

### （2）展開

時間	学習活動	○教師のかかわり ◆評価〔方法〕	備考
10	1 前時の学習を振り返り、本時の課題を捉える。	○教師の作成したモデルの詩を提示し、この詩のテーマ（自分にとっての意味や価値を短い言葉で表現したもの）は何かを考えさせることで、本時は自分のテーマを明確にしていくという見通しを持たせるようにする。	モデルの詩
自分が最も伝えたいことは何だろう。			
10	2 選んだ出来事が、自分にとってどんな意味や価値があるのかを考え、材料を整理する。	○前時に作成したイメージマップに書き出した材料（自分や周りの人がしたこと、かけられた言葉、その時考えたこと）から、今の自分にとって一番大きな意味や価値をもっているものに注目させ、自分のテーマを考えるようにする。テーマが決まらない児童やどんな言葉で表現すればよいか分からない児童には、テーマ例から選択してもよいことを伝える。 ○テーマが決まったら、イメージマップに書き出した材料から、詩や俳句、短歌に入れたい中心になる材料を選ぶようにする。その際、選んだ材料が分かるよう、枠に色をつけておくようにする。新たに付け加えたいことがある場合は、イメージマップに付け足すよう助言する。	タブレット端末
10	3 友達と交流し、自分が考えたテーマや選んだ材料について伝え合う。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;"><b>〈視点2-①〉考えを表出し比較する場</b></p> <p>○タブレット端末に公開された全員のイメージマップを見て、同じ出来事や同じテーマを選んでいる児童と交流できるようにする。どの出来事に注目して、どんな意味付けや価値付けをしたか説明し合ったり、意見を言い合ったりできるようにする。</p> </div>	
10	4 自分が最も伝えたいことを見直す。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;"><b>〈視点2-②〉納得解を生み出す根拠や理由づけの充実</b></p> <p>○友達と話し合ったことを基に、自分のイメージマップを改めて見直し、テーマについて再考したり、材料を付け加えたりして、一人一人が言葉への自覚を高めながら納得解を生み出すことができるようにする。</p> </div>	
5	5 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	<p>◆選んだ出来事に対する意味や価値を選び、短い言葉で表現し、最も伝えたいことを明確にしている。 〔イメージマップ〕</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;"><b>〈視点1-③〉立ち止まって振り返る場</b></p> <p>○振り返りの観点を提示し、どのようにして自分の伝えたいことを明確にしていたか、誰のどんな言葉で考えが変わったり深まったりしたか振り返らせるようにする。</p> </div>	ふり返しシート

## 【1年（読むこと）】

いろんなちがいを見つけて、『どうぶつの赤ちゃん びっくりずかん』をつくろう（「どうぶつ の 赤ちゃん」）  
指導者 緒方 傑（熊本市立桜木小学校）

視点1 学びを自覚するための手立て

視点2 共に学び続けるための工夫

### 学びの土台

これまで：問いや答えなど大事な言葉を捉えて、説明の順序に気をつけながら読む  
これから：比べながら読むことで情報と情報の関係を捉え、重要な語や文を選び出すことができる

単元

### 学習課題

「どうぶつの赤ちゃん」の様子を比べながら読み、いろんなちがいを見つけて、『どうぶつの赤ちゃん びっくりずかん』をつくろう。

#### 指導事項

文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと C読むこと（1）ウ

#### 思考操作

「どうぶつの赤ちゃん」の様子を比べながら読む

### 言語活動

『どうぶつの赤ちゃん びっくりずかん』をつくってみんなで読み合う

#### <立ち止まって振り返る場>

はかせ日記で、今日の発見（学びやつながり）やびっくり・気になるポイントを書き溜め、次時の課題設定や「びっくりずかんづくり」に生かせるようにする。

#### <考えを表出し比較する場>

「ライオンとしまうまの赤ちゃんでは、どちらの方が強いか」の問いに、ロイノートの色カードを使って自分の立場を示すことで、子ども同士の思考のずれを可視化し本文を基に比較しながら考えを交流できるようにする。

言葉による  
見方・考え方を  
働かせる

#### <納得解を生み出す根拠や理由づけの充実>

比較の視点ごとに板書を構造化することで、考えの根拠となる本文の言葉を明らかにして理由づけを行い吟味できるようにする。その際、子どもたちの生活経験や身近なものとの比較を促したり実際に演じたりすることで、一人一人が言葉への自覚を高めながら納得解を生み出すことができるようにする。

本時

### 本単元で目指す子どもの姿

比べながら読むことで情報と情報の結びつきやその違いに目を向け、新たな発見や驚きがあることに気づき、また、他者と交流する中でお互いの考え方や視点の違いを楽しみながら理解を深めていく子ども。

# 第1学年2組 国語科学習指導案

指導者 熊本市立桜木小学校 緒方 傑

1 単元名 いろんなちがいを見つけて、『どうぶつの赤ちゃん びっくりずかん』をつくろう  
「どうぶつの赤ちゃん」(光村図書1年)

2 学習課題 「どうぶつの赤ちゃん」の様子を比べながら読み、いろんなちがいを見つけて、『どうぶつの赤ちゃん びっくりずかん』をつくろう。

[指導事項] 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができるようにする。

C読むこと(1)ウ

[思考操作] 「どうぶつの赤ちゃん」の様子を比べながら読む。

[言語活動] 『どうぶつの赤ちゃん びっくりずかん』をつくってみんなで読み合う。

## 3 単元について

### <教材観>

本教材の特徴としては次の通りである。

- ・ライオンとしましま、カンガルーの赤ちゃんという対照的な事例を比較することで、動物の赤ちゃんの様子の違いが分かりやすい。
- ・冒頭で二つの問い(「生まれたばかりの様子」「大きくなっていく様子」)が示され、その問いに答えるかたちでそれぞれの動物の事例が説明されており、問いと答えの関係に子どもも気づきやすい文章構造である。

以上の特徴から、事例を比較して読むことで比べている観点や文章構造に気づきながら、動物の赤ちゃんの様々な違いに驚き、他の動物についても知りたいと追求したくなる教材であると言える。それぞれが思った驚きや疑問の違いを共有していくなかで対話が生まれていくことが期待される。そのような学びを生み出すために、『どうぶつの赤ちゃん びっくりずかんづくり』という言語活動を核にした単元を構想する。

### <児童観>

子どもたちは、これまで1年「さとうとしお」「どうやってみをまもるのかな」「いろいろなふね」で問いや答えなど大事な言葉を捉えて、説明の順序に気をつけながら読むことを経験している。

そのような学習を通して、読んで大事な言葉を見つけたり内容の大体を捉えたりすることは、ほとんどの子どもができるようになってきている。しかし、事例を比べながら読み、情報と情報の関係について考えられる子どもはまだ少ない。

### <視点について>

#### [視点1] 学びを自覚するための手立て

第一次においては、既習教材の「どうやってみをまもるのかな」で教師が作成したクイズや言語活動モデルを提示し、様々な動物の赤ちゃんを比べて違いや驚きを見つけてながら図鑑を作っていくことを共有していく。既習事項やそれぞれの読書生活を想起しながら、これまでの学びと本単元での学びがどのようにつながっているかを自覚できるようにしていく。さらに、『どうぶつの赤ちゃん びっくりずかん』をつくるために必要な視点や考え方について子ども同士で話し合わせながら、上記のような学習課題を設定していく。

第二次においては、毎時間授業の最後に「はかせ日記」を書き、自らの学習を振り返る場を設定する。図鑑の書き手として、今日の発見(学びやつながり)やびっくり・気になるポイントを書き溜め、次時の課題設定や「びっくりずかんづくり」に生かせるようにする。また、その振り返りを共有する中で、それぞれの考え方の良さを問うたり、教師が価値づけたりすることで、学びの価値を自覚できるようにしていく。

#### [視点2] 共に学び続けるための工夫

動物の赤ちゃんの様子を捉える際「AとBではどちらが～か?」と問い、ロイロノートの色カードを使って自分の立場を示させる。子ども同士の思考のずれから違いを比べたり、「〇の方が～。だって…」等本文の言葉を基に自分の考えを語ったりすることで、互いの考えの妥当性を検討していく場を設定する。

特に、比較の視点ごとに板書を構造化することで、考えの根拠となる本文の言葉を明らかにして理由づけを行い吟味できるようにする。その際、子どもたちの生活経験や身近なものとの比較を促したり実際に演じたりすることで、そうした比較検討の場で働かせた「言葉による見方・考え方」を価値づけ、一人一人が言葉への自覚を高めながら納得解を生み出すことができるようにする。

#### 4 単元の見目標

- ◎ 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。 (知・技) (2) ア
- 読書に親しみ、いろいろな本があることを理解することができる。 (知・技) (3) エ
- 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。 C読 (1) ア
- ◎ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。 C読 (1) ウ
- 文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。 C読 (1) カ
- 学習の見通しをもち、文章内容を比べながら粘り強く読むことで、本から得たことを友達に知らせようとする。 (学・人)

#### 5 指導と評価の計画 (10時間取り扱い)

次	時	学習活動	教師のかかわり	評価規準 [評価方法]
一	1	○ どうぶつクイズを基に単元の見通しをもつ。	・ 指導者作成のクイズをもとに、「どうぶつずかん」を提示して言語活動のイメージをもてるようにする。	
<p>〈学習課題〉「どうぶつの赤ちゃん」の様子を比べながら読み、いろいろなちがいを見つけて、『どうぶつの赤ちゃん びっくりずかん』をつくらう。</p>				
		○ 教材文を読み内容の大体を捉え、初めて知ったことやもっと知りたいことを書く。	・ 指導者作成の「学びの山」を活用して学習計画を立てることで、毎時間単元の見通しを持ちながら学ぶことができるようにする。	<b>思</b> 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 [学びの山]
二	2 3	○ ライオンと人間の赤ちゃんを比べながら読む。	・ ライオンと人間の赤ちゃんの共通点や相違点を出し合い、比べている観点や文章構造に気づくことができるようにする。	<b>知</b> 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 [シート]
	4 5 本時	○ ライオンとしまうまの赤ちゃんを比べながら読む。	・ 「生まれたばかりの赤ちゃんでは、どちらの方が強いか」と問い、ロイノートでそれぞれの立場や思考のずれを可視化する。 ・ 「～の方が強い」という意見に対して問い返すことで、本文を根拠に比較できるようにする。 ・ 生活経験や身近なものとの比較を促し、びっくりずかんにつながる驚きや疑問を価値づけ、一人一人納得解を生み出せるようにする。	<b>思</b> 文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 [シート]
	6 7	○ カンガルーの赤ちゃんをライオンとしまうまの赤ちゃんと比べながら読む。	・ 「生まれたばかりの赤ちゃんでは、どちらの方が甘えん坊か」と問い、比べている観点を基に本文を根拠にした比較を促す。 ・ これまでの学習の振り返りやびっくりポイントを見直すことで、比べて読むよさや自己の読みの変容を自覚できるようにする。	<b>主</b> 文章内容を比べながら粘り強く読むことで、学習課題に沿って考えをまとめている。 [シート・振り返り]
三	8 9	○ 動物の赤ちゃんについて調べ、必要な情報を書き抜いてまとめる。	・ シートを基に、比べている観点を明確にして調べ学習に取り組むよう指導する。	<b>知</b> 読書に親しみ、いろいろな本があることを理解している。 [シート]
	10	○ 『びっくりずかん』を読み合い、身に付けた力を振り返る。	・ 「～と比べて…」等、友達と読み合うなかで、共通点や相違点を見つけるように促す。	

## 6 本時の学習（5／10）

### （1）目標

「ライオンとしまの赤ちゃんでは、どちらの方が強いか」その理由について話し合うことを通して、それぞれの動物の赤ちゃんの様子を比べながら読むことができる。

### （2）展開

時間	学習活動	○教師のかかわり ◆評価〔方法〕	備考
7	1 前時の学習を振り返り、本時の課題を捉える。	○「学びの山」や「はかせ日記」を基に学習を振り返り、本時では何を比べながら読むのか見通しを持てるようにする。 ○「赤ちゃんでは、ライオンとしまのどちらが強いか」と問い、子どもの思考のずれから違いを比べるという本時の課題を設定する。	学びの山
ライオンとしまの赤ちゃんでは、どちらの方が強いのだろう。			
8 20	2 二つの事例を音読みし、内容の大体を捉える。 3 ライオンとしまの赤ちゃんはどちらが強いか話し合う。 (1)個人で考える。  (2)全体で交流する。	○ライオンとしまの赤ちゃんはどちらが強いのかと視点を持って音読するよう促す。  <u>〈視点2-①〉考えを表出し比較する場</u> ○「ライオンとしまの赤ちゃんでは、どちらの方が強いか」の問いに、ロイロノートの色カードを使って自分の立場を示すことで、子ども同士の思考のずれを可視化し本文を基に比較しながら互いの考えの妥当性を検討していくことができるようにする。  ○本文の比べている観点を基に理由づけしている子どもの発言を価値づけ、複数の視点から多角的に検討することができるようにする。  <u>〈視点2-②〉納得解を生み出す根拠や理由付けの充実</u> ○比較の視点ごとに板書を構造化することで、考えの根拠となる本文の言葉を明らかにして理由づけを行い、吟味できるようにする。その際、子どもたちの生活経験や身近なものとの比較を促したり実際に演じさせたりすることで、一人一人が言葉への自覚を高めながら納得解を生み出すことができるようにする。	教科書挿絵  ロイロノート  ワークシート
10	4 本時の学習を振り返り、はかせ日記を書く。	○びっくりずかんの書き手として「はかせ日記」を書くことで、『どうぶつの赤ちゃん びっくりずかん』づくりへ見通しを持ちながら学習の振り返りができるようにする。 ◆比べている観点を基に、それぞれの動物の赤ちゃんの違いを捉えている。〔発言・ワークシート〕  <u>〈視点1-③〉立ち止まって振り返る場</u> ○はかせ日記で、今日の発見（学びやつながり）やびっくり・気になるポイントを書き溜め、次時の課題設定や「びっくりずかんづくり」に生かせるようにする。	ワークシート

## 【2年（書くこと）】

ぴったりの言葉をえらんで、『自分だけの詩』を作ろう（「見たこと、かんじたこと」）

指導者 井出 愛子（山鹿市立山鹿小学校）

視点1 学びを自覚するための手立て

視点2 共に学び続けるための工夫

単元

### 学びの土台

これまで：経験したことや想像したことから書きたいことを見つけ、伝えようとする  
これから：伝えたいことを、言葉を選んだり並べたりして詩に表すことを楽しもうとする

### 学習課題

集めた言葉の中から、書きたいことを見つけ、「自分だけの詩」を作ろう。

#### 指導事項

経験したことや想像したことなどから書くことを見つけること  
B書くこと（1）ア

#### 思考操作

集めて選んだ言葉から短文を作り、  
順序を考えて並べ替える

### 言語活動

「自分だけの詩」を作る

#### <立ち止まって振り返る場>

詩に書きたいことはあるが、どうやって書いたらよいかわからないといった子どもたちの困りごとを取り上げ、本時の課題を設定する。

#### <考えを表出し比較する場>

「くりひろい」という言葉から想像する言葉を、友達と出し合うことで、いろいろな感じ方があることを知る。また、言葉を使った短文を順序を考えて並べ替えることで詩が作れることを捉えさせる。

言葉による  
見方・考え方を  
働かせる

#### <納得解を生み出す根拠や理由づけの充実>

モデルを示して学んだ詩の作り方を基に、題材についてペアで話し合い、題材のイメージを理由を交えて伝え合って確かめることで、一人一人が言葉への自覚を高めながら納得解を生み出すことができるようにする。

本時

### 本単元で目指す子どもの姿

題材からイメージを広げて言葉を集め、心が動いたことを詩に表す活動を通して、進んで身近にある詩を読んで親しんだり、心が動いたことを作品に表したりする子ども。

## 第2学年1組 国語科学習指導案

指導者 山鹿市立山鹿小学校 井出 愛子

- 1 単元名 ぴったりな言葉をえらんで、『自分だけの詩』を作ろう  
「見たこと、かんじたこと」(光村図書2年)
- 2 学習課題 集めた言葉の中から書きたいことを見つけ、「自分だけの詩」を作ろう。

[指導事項] 経験したことや想像したことなどから書くことを見つれたりすることができるようにする。B書くこと(1)ア

[思考操作] 集めて選んだ言葉から短文を作り、順序を考えて並べ替える。

[言語活動] 「自分だけの詩」を作る。

### 3 単元について

#### <教材観>

本教材の特徴としては次の通りである。

- ・この教材は、2年生が作った詩が3作品紹介されており、言葉の響きや簡潔な表現が親しみやすい内容である。
- ・前時の「ようすをあらわすことば」で学習した表現や、五感を使って感じたこと、気持ちを表す表現を用いて詩に表す活動である。

以上の特徴から、作品を通した見方の新鮮さや自分の身近でも起きそうな親しさの実感から、児童は詩を身近で楽しいものと感じて、詩を作る活動に意欲をわかせると考えられる。そのような学びを生み出すために、「自分だけの詩」を作るという言語活動を核にした単元を構想する。

#### <児童観>

子どもたちは、これまでものの見方や感じ方を豊かにするために、「きせつのことば」を学習し、「かんさつ名人になろう」でていねいに観察したことを、文章にまとめる経験を積んでいる。また、「ようすをあらわすことば」を学習している。

こどもたちは、いろいろな言葉に親しみを持って言葉集めをするが、そこから詩を作るのが難しい実態がある。

#### <視点について>

##### [視点1] 学びを自覚するための手立て

第一次においては、「詩を書きたいが、どうやって書いたらいいだろう。」「どんな言葉を選んだらいいだろう。」「どこで困ったり迷ったりしたか。」等、自らの学習を振り返る場を設定する。その振り返りを共有する場を授業の導入や終末等で設け、それぞれの考え方のよさを問うたり、教師が価値づけたりすることで、学びの価値を自覚できるようにしていく。

第二次においては、身近にある自然や経験を図や写真、動画で提示し、そこから思いつく言葉を挙げ、どう心が動いたかを表現していくことを共有していく。その際、見たことをくわしく表す言葉、五感を使って感じたことを表す言葉、気持ちを表す言葉、様子を表す言葉といった既習事項を想起しながら、詩とは、作文と比べて短く表す表現であることを捉え、これまでの学びと本単元での学びがどのようにつながっているかを自覚できるようにしていく。さらに、『自分だけの詩』を作るために必要な視点や考え方について子ども同士で話し合わせながら、上記のような学習課題を設定していく。

##### [視点2] 共に学び続けるための工夫

身近な出来事や体験を振り返って思い出し、詩の題材とする際に、子ども同士の考えや思考の違いや共通点を可視化するために、それぞれが考えた言葉を出し合い、五感や気持ちごとに「言葉の分類図」に分類していく。それらを比較しながら、さらに詩に使いたい言葉を、その理由を挙げながら選び、ぴったりな言葉の根拠となるようにする。そして、学習した詩の表現と組み合わせ、詩を実際にかくことへとつなげていけるようにする。

#### 4 単元目標

- 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。  
(知・技) (1) オ
- 経験したことや想像したことなどから書くことをみつけることができる。  
B書 (1) ア
- 積極的に経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、これまでの学習をいかして詩を書こうとする。  
(学・人)

#### 5 指導と評価の計画 (6時間取り扱い)

次	時	学習活動	教師のかかわり	評価規準 [評価方法]
一	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活の中で心が動いたことを振り返る。</li> <li>○P98の三つの詩を音読する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の中で心が動いたことを考えさせることで、詩に表す経験をみつける準備をさせる。</li> <li>・声に出して読むことで、短い言葉の組み合わせから共感することや、言葉の響きの楽しさを体感し、詩に興味をもたせておく。</li> </ul>	<b>知</b> 心の動きや伝えたいことの様子を的確に探している。 [ワークシート]
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <b>〈学習課題〉</b> 集めた言葉の中から、書きたいことを見つけ、「自分だけの詩」を作ろう         </div>				
二	2	○P98の三つの詩を読み、表現の工夫や「たいせつ」に書かれたことをたしかめる。	・三つの詩から、心の動きや様子が分かる言葉を見つけて、詩の表現の工夫に気づけるようにする。	<b>知</b> 詩を書くために、心の動きや伝えたいことの様子を的確に表す言葉のよさをみつけている。 [ワークシート]
	3 本時	○「くりひろい」から想像する言葉から短文を作り、ペアで一つの詩を書く。	・モデルを示して学んだ詩の作り方を基に、表したい言葉を理由をつけて選び出してまとめていく姿を価値づけ、一人一人が言葉への自覚を高めながら納得解を生み出せるようにする。	<b>思</b> 言葉を集めたり、短文を並べたりして詩を作っている。 [シート・振り返り]
三	4 5	○これまで学習した表現の工夫を使って詩を書く。	・教科書の詩の表現を参考にしたり、「ようすをあらわすことば」で学習したことを振り返ったりして、読む人に伝わるような表現の工夫をするとよいことを伝える。	<b>思</b> 経験したことから書く材料を集め、表現の工夫を使って詩を書いている。 [作品]
	6	○友達の書いた詩を読み、感想を伝え合う。	・互いの作品のよさを見つけ合うことを伝える。	<b>主</b> 積極的に、友達の作品を読み、そのよさに気づいて、伝えようとしている。



## 6 本時の学習（3／6）

### （1）目標

集めた言葉をもとに、短文を作り、並べ替えることを通して、詩の書き方を知ることができる。

### （2）展開

時間	学習活動	○教師のかかわり ◆評価 [方法]	備考
5	1 前時の学習を振り返り、本時の課題を捉える。	○詩の題名あてクイズをし、詩を作る上でたいせつなことを確認し、見通しをもたせ、自分達も書いてみたいと思えるようにする。  <b>〈視点1-③〉立ち止まって振り返る場</b> ○「どんなことを詩にしてみたいですか。」という問いに「体験してびっくりしたことを書きたい。」「大好きな○○について書きたい。」「でも、どうやって書いたらいいかな。」といった児童の素直な反応を取り上げて、以下のような課題を設定する。	詩の例 たいせつ
「くりひろい」の詩をつくって、詩の書き方を知ろう。			
15	2 「くりひろい」で思いつく言葉を出し合う。	○自分の詩を作る前に、身近な言葉に注目し、児童が体験したことをもとに自由に言葉を出し合わせる。その際、五感や感じたことをもとに表していることに気づかせる。そしてモデルの詩の提示から、詩を作る時の視点に気づかせる。  <b>〈視点2-①〉考えを表出し比較する場</b> ○「くりひろい」から、秋の森の様子、イガを踏んだ時の音、中から出てきた栗、ひろう楽しさ、友達との会話の様子など、友達と言葉を出し合うことで、いろいろな感じ方があることを知り、その中から言葉を選んで短文を作り、順序を考えて並べ替える活動を通して、詩を書き表すとよいことを捉えさせる。	ワークシート 言葉の分類 図
20	3 「くりひろい」についてペアで話し合い、詩を作る。	<b>〈視点2-②〉納得解を生み出す根拠や理由付けの充実</b> ○モデルを示して学んだ詩の作り方を基に、ペアで表したい言葉を理由をつけて選び出してまとめていく姿を価値づけることで、一人一人が言葉への自覚を高めながら納得解を生み出すことができるようにする。  ◆集めた言葉の中から、最も表したい言葉を選んで短文を作り、詩を完成させている。 [発言・ワークシート]	短冊
5	4 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	○本時で学習したことを詩づくりにどのように生かすとよいかを振り返り、次の学習で自分の詩を書く見通しを持たせる。	

## 【４年（読むこと）】

興味を持ったところを中心に要約し、「紹介カード」を作って紹介しよう（「ウナギのなぞを追って」）

指導者 木下 晃司（あさぎり町立上小学校）

視点1 学びを自覚するための手立て

視点2 共に学び続けるための工夫

単元

### 学びの土台

これまで：まとまりごとに中心となる語や文を確かめ、要約する

これから：興味を持ったところを中心に要約する

### 学習課題

調査結果と予想の関係に着目して、調査内容を捉え、興味をもったところをまとめて「紹介カード」を作り紹介しよう。

#### 指導事項

目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること

Ｃ読むこと（１）ウ

#### 思考操作

調査結果と予想とを関連付ける

### 言語活動

興味を持ったところをまとめて「紹介カード」を作り、紹介しよう

#### <立ち止まって振り返る場>

長年の調査の理由について、「何に注目することでどんなことが分かったのか」というフレームに沿って振り返ることで、興味をもったところにおける中心となる語句について自覚することができるようにする。

#### <考えを表出し比較する場>

子どもたちの意見をロイロノートで共有し、興味を中心を視点としてシンキングツールで分類することで、同じ視点の意見を吟味できるようにする。

言葉による  
見方・考え方を  
働かせる

#### <納得解を生み出す根拠や理由づけの充実>

興味を中心ごとに、考えの根拠となる言葉や文を吟味し、調査に長い年月がかかった理由に迫っていきけるようにする。根拠や理由の共通点や相違点を考える中で、筆者の努力、予想と結果の連続、順序を追った調査などに気付きながら納得解を生み出せるようにする。

本時

### 本単元で目指す子どもの姿

興味を持った内容の中心となる語や文を選んで要約した文を紹介し合うことで、一人一人の感じ方の違いやそのよさに気づき、多面的に物事を捉えようとする子ども。

## 第4学年1組 国語科学習指導案

指導者 あさぎり町立上小学校 木下 晃司

- 1 単元名 興味を持ったところを中心に要約し、「紹介カード」を作って紹介しよう  
「ウナギのなぞを追って」(光村図書4年)
- 2 学習課題 筆者の調査と予想の関係に注目して、調査内容を捉え、興味を持ったところをまとめて『紹介カード』を作り紹介しよう。
- [指導事項] 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができるようにする。 C読むこと(1)ウ
- [思考操作] 調査結果と予想とを関連付ける。
- [言語活動] 興味をもったところをまとめて『紹介カード』を作り紹介する。

### 3 単元について

#### <教材観>

本教材の特徴としては次の通りである。

- ・教材は筆者の調査報告文となっており、予想をもとに調査が進められ、それをもとに事実が積み重ねられて考察してある。
- ・調査以外にも、ウナギの生態、長年にわたる研究における地道な努力など、多様な要素が含まれている。

以上の特徴から、一人一人の興味をもとに内容をまとめるとともに、それらを紹介し合い互いの感じ方の違いやよさに気付くことができる教材であると言える。80年近く調査に時間がかかったことが子どもの感想から疑問として出てくるのが予想される。その理由を共有し比較していく中で、それぞれの興味の中心が明らかになっていくことが期待される。そのような学びを生み出すために、興味を持ったところをまとめて紹介しようという言語活動を核にした単元を構想する。

#### <児童観>

子どもたちは、これまで4年生の1学期に「要約するとき」の単元で要約の方法を知り、「世界にほこる和紙」でまとめごとを中心にとなる語や文を選び、要約する経験をしている。

そのような学習を通して、まとめごとを中心にとなる語や文を見つけることは、ほとんどの子どもができるようになってきている。しかし、自分の興味を持ったところの中心となる語や文を確かめて要約できる子どもはまだ少ない。

#### <視点について>

##### [視点1] 学びを自覚するための手立て

第一次においては、既習教材の「思いやりのデザイン」「世界にほこる和紙」において、何のために要約するのか、相手や分量によって要約の仕方がかわることをふり返る。また、興味をもったところをまとめた言語活動モデルを提示し、既習事項との違いから上のような学習活動を設定する。

第二次においては、調査に長い年月がかかった理由について、自らの学習を振り返る場を設定する。その際に「何に注目することで、どんなことが分かったのか」という話型を活用し、興味をもった中心をより明確にしていくことで、学びを自覚できるようにしていく。

##### [視点2] 共に学び続けるための工夫

「中」の調査過程を読み進める際に、調査に長い年月がかかった理由について考えた子どもたちの意見を、「Xチャート」のシンキングツールを使って、「レプトセファルス」「たまご」「調査」など、子どもたちの興味の中心を視点に分類する。視点ごとに分けられた理由を比較し、根拠や理由の相違点や共通点を考えたり、根拠となる叙述の妥当性を検討したりする場を設定する。特に、「調査」の視点では、「ぱったりととれなくなっているのです」などの叙述に注目することで、調査への努力や試行錯誤の過程に気付くことができるようにする。その際、調査結果と予想、さらには資料を関係付けることで、そうした比較検討の場で働かせた「言葉による見方・考え方」を価値づけて、一人一人が言葉への自覚を高めながら納得解を生み出すことができるようにする。

#### 4 単元の見通し

- 様子や行動を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。 (知・技) (1) オ
- ◎ 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。 C読 (1) オ
- 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。 C読 (1) オ
- 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。 C読 (1) エ
- 文章を読んで理解したことに基づいて感想をもち、興味をもったところを紹介する文を書いて伝え合おうとする。 (学・人)

#### 5 指導と評価の計画 (8時間取り扱い)

次	時	学習活動	教師のかかわり	評価規準 [評価方法]
一	1	○ 紹介カードをもとに単元の見通しをもつ。 ○ 教材文を読み初発の感想を書く。	・ 指導者作成の「世界にほこる和紙」の「紹介カード」を提示して、言語活動のイメージをもてるようにする。	
<b>〈学習課題〉</b> 筆者の調査と予想の関係に注目して、調査内容を捉え、興味をもったところをまとめて「紹介カード」を作り紹介しよう。				
	2	○ 感想を出し合うことで、興味を中心に確かめる。 ○ 大まかな文章構成と内容を捉える。	・ 「なぜ調査に80年近くかかったのか」について、子どもたちから出た感想をグルーピングすることで、「興味を中心に」を明らかにし、「中」を読み取っていくための必要感をもてるようにする。	<b>思</b> 初発の感想を共有して、興味をもったところや感じ方などに、違いがあることに気付いている。 [振り返り]
二	3	○ 「中」を読んで、調査の流れを捉える。	・ 「調査結果」と「予想」を関連付けて読んでいくことで、調査の流れを理解することができるようにする。	<b>知</b> 様子や行動を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。 [ノート・メモ]
	4 本時	○ 「中」を読み深める。	・ 「なぜ調査に80年近くかかったのか」について、興味を中心に分けて理由を整理することで、興味を中心に明らかにすることができるようにする。	<b>思</b> 文章を読んで理解したことに基づいて、理由や感想をもっている。 [発言・ノート]
	5	○ 興味をもった中心を検討する。	・ 文章構成図を活用することで、興味を中心に選んだ語や文を検討できるようにする。	<b>主</b> 文章を読んで理解したことに基づき、興味をもったところを紹介する文を書こうとしている。[紹介カード]
	6	○ 興味をもったところに沿って大事な言葉や文を書き出し、整理する。	・ 興味を中心に同じ子ども同士でグループを組ませることで、大事な言葉や文を書き出す際に、検討できるようにする。	
	7	○ 興味をもったことに沿って本文を要約し、感想を加えて紹介文を書く。	・ 指導者が作成した紹介カードや前時のノート、ワークシートを活用して、要約できるようにする。	<b>思</b> 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。 [紹介カード]
三	8	○ 作った紹介カードを読み合い、感想を伝え合う。	・ 興味を中心に感想、要約の仕方などの違いについて、指導者からも取り上げて紹介することで、視点をもった振り返りへとつなげられるようにする。	<b>思</b> 紹介カードを読んで感じたことなどを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。 [振り返り]

## 6 本時の学習（4／8）

### （1）目標

なぜ，調査に80年近くかかったのかを考えることを通して，「中」の調査内容を読み深めることができる。

### （2）展開

時間	学習活動	○教師のかかわり ◆評価 [方法]	備考
7	1 調査と前時の学習を振り返る。	○前時で調べた調査結果や予想を短冊にし，それらを調査の通りに並べる活動をするこ とで，大まかな調査の内容を振り返ることが できるようにする。  ○なぜ，たまごを産む場所を見つけるのに80 年近くの年月がかかったのかを問いかけるこ とで，調査内容をさらにくわしく読む必要 性をもたせるようにする。	ロイロ ノート
なぜ，調査に80年近くの年月がかかったのかを考えよう。			
30	2 なぜ調査に80年近くの年月がかかったのかを考える。 (1) 一人学びをする。 (2) グループで話し合う。  (3) 全体で話し合う。	○感想を出し合った際に出た「レプトセファルス」「たまご」「塚本さんたちの調査」などの興 味の中心を視点に示すことで，長年の調査の 理由を叙述から考えることができるようにす る。  <u>〈視点2-①〉考えを表出し比較する場</u> ○子どもたちの意見をロイロノートで共有 し，シンキングツールを使って「レプトセフ ァルス」「たまご」「調査」などの視点で分類 することで，興味を中心ごとに吟味できる ようにする。  <u>〈視点2-②〉納得解を生み出す根拠や理由付けの充実</u> ○興味を中心ごとに，考えの根拠となる語句 を吟味し，調査に長い年月がかかった理由 に迫っていけるようにする。根拠や理由の 共通点や相違点を考える中で，筆者の努力， 予想と結果の連続，順序を追った調査など に気づきながら納得解を生み出せるように する。	ロイロ ノート  デジタ ル黒板  拡大した地 図
8	3 本時の学習を振り返り，次時の見直しをもつ。	◆調査に長い年月がかかった理由を捉えて感想 をもっている。[発言・ノート]  <u>〈視点1-③〉立ち止まって振り返る場</u> ○長年の調査の理由について，「何に注目す ることによってどんなことが分かったのか」という フレームに沿って振り返ることで，興味を もったところにおける中心となる語句につ いて自覚することができるようにする。  ○紹介カード作りのための学習計画をもとに本 時の学習を振り返ることで，次の学習の見通 しをもつことができるようにする。	

## 【5年（書くこと）】

書き表し方を工夫し、『おすすめの本カード』を作ろう（「この本、おすすめします」）  
指導者 庭月野 竜王（水俣市立袋小学校）

視点1 学びを自覚するための手立て

視点2 共に学び続けるための工夫

### 学びの土台

これまで：自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にし、書き表し方を工夫する  
これから：自分の考えが伝わるように、目的や意図に応じて書き表し方を工夫する

### 学習課題

目的や意図に合わせて必要な情報を整理し、書き表し方を工夫して、下級生にむけて『おすすめの本カード』を作ろう。

#### 指導事項

目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること B書くこと(1)ウ

#### 思考操作

目的や意図に合わせて必要な情報を整理する

### 言語活動

「おすすめの本カード」を作る

#### <立ち止まって振り返る場>

終末では、児童に本時の「気づいたこと」、「なるほどと思ったこと」、「今後生かしていきたいこと」を振り返らせ、学びを価値づけるようにする。

#### <考えを表出し比較する場>

構成の工夫について、タブレット端末を使って、自分の意見と他の意見を比較することで、考えを深めることができるようにする。

言葉による  
見方・考え方を  
働かせる

#### <納得解を生み出す根拠や理由づけの充実>

構成の順序や工夫について2種類の文章を比べながら考えることで、児童が根拠や理由付けを明確にしなが、よりよい納得解を生み出すことができるようにする。

### 本単元で目指す子どもの姿

自分の考えが伝わるように、目的や意図に合わせて情報を整理しながら、粘り強く推敲を重ね、書き表し方を工夫して、文章を書こうとする子ども。

単元

本時

# 第5学年1組 国語科学習指導案

指導者 水俣市立袋小学校 庭月野 竜王

1 単元名 書き表し方を工夫し、下級生にむけて『おすすめの本カード』を作ろう  
「この本、おすすめします」(光村図書5年)

2 学習課題 目的や意図に合わせて必要な情報を整理し、書き表し方を工夫して、  
下級生にむけて『おすすめの本カード』を作ろう。

[指導事項] 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実  
と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように  
書き表し方を工夫することができるようにする。 B書くこと(1)ウ

[思考操作] 目的や意図に合わせて必要な情報を整理する。

[言語活動] 下級生にむけて『おすすめの本カード』を作る。

## 3 単元について

### <教材観>

本題材の特徴としては次の通りである。

- ・本という題材は、子どもにとって身近な存在であり、推薦するために読書に取り組むため、学習上も意義が大きい。
- ・言語活動については、推薦する対象と、推薦する相手の特徴を十分に理解してから取り組む必要がある。
- ・自分が推薦した本を友達に読んでもらうことで、達成感を味わいやすい単元である。

以上の特徴から、目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方の工夫を考慮することができる教材であると言える。それらを考えていく際に、相手意識をもって、推薦文を書こうとする姿が期待される。そのような学びを生み出すために、『おすすめの本カード』作りという言語活動を核にした単元を構想する。

### <児童観>

子どもたちは、これまで4年「もしものときにそなえよう」や5年「あなたは、どう考える」などで文章の感想を伝え合い、自分の考えが伝わっているか確かめたり、根拠を示し、説得力のある意見文を書いたりする経験している。

そのような学習を通して、目的や意図に応じて文章を書くことはできるようになっているが、自分の考えが相手に伝わるような説得力のある文章が書ける児童はまだ少ない。

### <視点について>

#### [視点1] 学びを自覚するための手立て

第一次においては、今まで既習題材である「あなたは、どう考える」の学習で説得力のある文章を書いたことを想起できるようにする。そして今回は、相手意識をもって推薦文を書いていくことを伝える。その際、指導者が実際に作成した『おすすめの本カード』を提示することで、単元の学習を見通すことができるようにする。加えて、各学年の本の貸し出し状況を提示することで、児童の「本をおすすめして、貸し出し状況を改善させたい。」という意欲を高めるようにする。

第二次においては、相手にとって分かりやすい推薦文を書くために、「気づいたこと」、「なるほどと思ったこと」、「今後活かしていきたいこと」という3つの視点を与え、学習を振り返ることができるようにする。授業の導入や終末で、児童の振り返りを共有する時間を設けたり、教師がコメントを記入し、児童の振り返りを価値づけたりすることで、何を学習したのか、自覚を持つことができるようにする。

#### [視点2] 共に学び続けるための工夫

おすすめの本カードの構成を考える際にはタブレット端末を使い、児童が考えた構成を比較・共有することで、考えを深める場を設定する。

実際にカードを書く作業の際は、見出しの付け方や文章の言葉選びなど、「言葉による見方・考え方」を意識しながら学習に取り組めるようにする。また、実際に書いた文章はペアやグループで確認しながら、学習を進めることで根拠や理由付けを明確にして、学習を進められるようにする。

#### 4 単元の見直し

- 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。  
(知・技) (1) ア
- 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。  
B書 (1) ア
- ◎ 目的や意図に応じて簡単に書いたり、詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。  
B書 (1) ウ
- 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。  
B書 (1) カ
- 粘り強く、文章全体の構成を考え、学習の見直しをもって推薦文を書こうとする。  
(学・人)

#### 5 指導と評価の計画 (7時間取り扱い)

次	時	学習活動	教師のかかわり	評価規準 [評価方法]
一	1	○単元の見直しをもつとともに、推薦する本を選ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の図書室の利用状況を提示し、児童に「本を紹介したい」という必要感をもつことができるようにする。</li> <li>・指導者作成のカードを提示することで、言語活動のイメージをもてるようにする。</li> <li>・何年生に向けてカードを書くか話し合った後、推薦したい本を選ぶことができるようにする。</li> </ul>	
<b>〈学習課題〉</b> 書き表し方を工夫し、下級生にむけて『おすすめの本カード』を作ろう				
二	2	○推薦する本の内容や推薦したい理由を書き出す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一次で選んだ本の推薦したい理由と内容などをマトリックスとタブレット端末に書き出し、視覚化することで情報を整理できるようにする。</li> </ul>	
	3 本 時	○前時に書き出した内容から、必要な情報をまとめ、カードの構成を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書や教師が提示した例の中から構成のポイントを見つけ、『おすすめの本カード』の構成を考える活動に生かせるようにする。</li> </ul>	<b>【思】</b> 目的や意図に応じて集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にしている。 [ワークシート・タブレット端末]
	4	○前時に考えた構成を基に、カードの下書きを書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に書いた構成用紙を参考に、自分が書き出した情報を見ながら、下書きを書くことができるようにする。</li> </ul>	<b>【思】</b> 自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して下書きを書いている。 [タブレット端末・カード]
	5	○下書きを個人やグループで見直し、互いに助言を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に書いたカードの下書きを個人やグループで確認し、本の魅力を簡潔に伝えるために、文章表現を工夫することができないか考えることができるようにする。</li> </ul>	<b>【思】</b> 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。 [タブレット端末]
	6	○清書を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書き表し方の工夫を確認することで、丁寧に清書を書くことができるようにする。</li> </ul>	<b>【主】</b> 粘り強く、文章全体の構成を考え、推薦文を書こうとしている。 [カード]
三	7	○完成したカードを互いに見合い、感想を伝え合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・完成したカードを互いに見せ合い、感想を伝え合わせ、本単元の学習を価値づける。</li> <li>・完成したカードは、実際に下級生に贈ることで、児童の達成感につながるようにする。</li> </ul>	<b>【知】</b> 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。 [カード・発表]



## 6 本時の学習（3／7）

### （1）目標

本の魅力を伝えるために、例文から構成の工夫を見つける活動を通して、目的や意図に応じて、伝えたいことを明確にしながらか推薦文の構成を考えることができる。

### （2）展開

時間	学習活動	○教師のかかわり ◆評価 [方法]	備考
5	1 前時の学習を振り返り、本時の課題を捉える。	○前時では、本の内容やおすすめのポイントをまとめたことを確認し、本時では、下級生に本の魅力が伝わりやすいカードの構成の工夫について考えていくことを伝える。	タブレット端末
み力が伝わりやすいカードを作るためには、どのような構成にすればよいのだろう。			
10	2 例文を参考にして、カードの構成の順序やポイントをワークシートに書き出す。	<p><u>〈視点2-②〉納得解を生み出す根拠や理由付けの充実</u></p> <p>○構成の順序や工夫について2種類の文章を比べながら考えることで、児童が根拠や理由付けを明確にしながらか、よりよい納得解を生み出すことができるようにする。</p>	ワークシート
15	3 カードの構成の工夫についてペアで確認した後に、全体で共有する。	<p>○それぞれのペアで考えを整理し、全体で共有することでよりよい構成の順序や工夫について考えられるようにする。</p> <p><u>〈視点2-①〉考えを表出し比較する場</u></p> <p>○構成の工夫について、タブレット端末を使って、自分の意見と他の意見を比較することで、考えを深めることができるようにする。</p>	タブレット端末
10	4 本時で学習した構成の工夫をもとに、自分のカードの構成を考える。	<p>○本時で学んだ、相手に魅力が伝わりやすい構成の順序や工夫をもう一度確認し、自分のカードの構成を考えられるようにする。</p> <p>○タブレット端末を使い、文章の順序を並べ替えることでよりよい構成を考えることができるようにする。</p> <p>◆本の魅力を伝えるために、必要な情報を整理する活動を通して、目的や意図に応じて、伝えたいことを明確にしながらか推薦文の構成を考えている。 [発言・ワークシート]</p>	表 タブレット端末
5	5 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	<p>○本時で学習した構成のポイントを振り返り、自身のカードの構成をどのように改善させたのか確認することで、学びを価値づけるようにする。</p> <p><u>〈視点1-③〉立ち止まって振り返る場</u></p> <p>○終末では、児童に本時の「気づいたこと」、「なるほどと思ったこと」、「今後生かしていきたいこと」を振り返らせ、学びを価値づけるようにする。</p>	振り返りカード

## 【6年（話すこと・聞くこと）】

資料を効果的に使って、『夢スピーチ』をしよう（「今、私は、ぼくは」）

指導者 濱田 祐輔（天草市立本渡北小学校）

視点1 学びを自覚するための手立て

視点2 共に学び続けるための工夫

単元

### 学びの土台

これまで：話の内容が明確になるように、話の構成を考える

これから：資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する

### 学習課題

相手や状況、内容に合わせて資料を効果的に使い、『夢スピーチ』をしよう。

#### 指導事項

資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること  
A 話すこと・聞くこと（1）ウ

#### 思考操作

相手や状況、内容に合わせて資料を工夫する

### 言語活動

『夢スピーチ』をする

#### <立ち止まって振り返る場>

以前作ったプレゼン資料を振り返って再評価することで、資料活用が課題であることを自覚できるようにする。

#### <考えを表出し比較する場>

作成した資料に、意図を説明するシートを添付することで、考えを明確に表出し、他者と比較しやすくする。

言葉による  
見方・考え方を  
働かせる

#### <納得解を生み出す根拠や理由づけの充実>

作成した資料の意図や効果について話し合うことで、どのような工夫の仕方が最適であるかを理解し、自分のスピーチ資料作りをどのように工夫するとよいかという自身の問いについての納得解を生み出せるようにする。

本時

### 本単元で目指す子どもの姿

相手や状況、内容に合わせて資料を効果的に活用し、自分の考えを工夫して伝えようとする子ども。それを今後の生活に継続的に生かそうとする子ども。

## 第6学年3組 国語科学習指導案

指導者 天草市立本渡北小学校 濱田 祐輔

- 1 単元名 資料を効果的に使って、『夢スピーチ』をしよう  
「今、私は、ぼくは」(光村図書6年)

- 2 学習課題 相手や状況、内容に合わせて資料を効果的に使い、『夢スピーチ』をしよう。

[指導事項] 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるようになる。 A 話すこと・聞くこと (1) ウ

[思考操作] 相手や状況、内容に合わせて資料を工夫する。

[言語活動] 『夢スピーチ』をする。

### 3 単元について

#### <教材観>

本教材では、スピーチにおいて、相手を意識したり、資料を使ったりして効果的に自分の考えや思いを伝える力の育成を図る。

その力を育成するために設定した言語活動が『夢スピーチ』である。設定の意図は大きく二つある。

一つは、互いの夢を知り、それぞれがかげがえのない存在であることを実感したり、これから迎える新しい世界への希望をもったりすることである。

もう一つは、資料等を使ってスピーチを工夫する必然性が高いことである。夢は多様であり、きっかけとなる体験を皆は知らない。知名度が低い職種や言葉を含む場合もある。その難点を克服するために、資料の活用が効果的であると気づけるようにする。

#### <児童観>

子どもたちは、これまで5年「提案しよう、言葉とわたしたち」で事実と感想、意見を区別して、説得力のあるように構成を工夫することを経験している。その際、資料を効果的に提示することに触れているが、具体的な工夫の仕方については学んでいない。

1学期に他教科でプレゼン発表会をした際は、資料内の文字数が多く、聞き手にとって分かりづらい資料になっていることが多かった。

#### <視点について>

##### 〔視点1〕 学びを自覚するための手立て

本単元に類似する学習は、5年「提案しよう、言葉とわたしたち」で経験済みである。その際、構成を考えたりスピーチメモを作成したりしてきた。これらの既習事項については、過去の学習を想起しながら本単元でも取り扱っていく。既習事項は学習の土台となるため、一つ一つ丁寧に確かめながら皆が捉えられるようにする。本単元では資料の活用に焦点化できるようにする。

学習課題を設定する場面では、自分の未来を見つめたり、友達の未来を応援したりするという『夢スピーチ』の目的を明確にする。一人一人が順に夢を語って認め合う状況をイメージできるようにする。また、修学旅行の事前学習の際に作成したプレゼン資料を皆で振り返る。この時に作成した資料は文章が長く、読み手への伝わりやすさがあまり意識されていない。そのことに気づき、資料活用の工夫が本単元での重要課題であることを自覚できるようにする。

##### 〔視点2〕 共に学び続けるための工夫

本時において、作成した資料の伝わりやすさを話し合う際は、作成した資料だけでなく、意図を説明するシートを使って考えを表出する。このシートでは、「資料作りのポイント」のどれを意識したのかを「◎・○・ー」で示したり、意図を書いたりする。これらをロイロノートで皆が閲覧できる状態にして、友達の考えを見るだけで捉えたり、比較したりできるようにする。そこに、考えを説明したり検討したりする話し合いを加える。そうすることで、「資料作りのポイントを使うことで～という効果があった」という実感を理由づけとして、「○○さんのような工夫が私のスピーチ資料に使いそうだ」という納得解を生み出せるようにする。

#### 4 単元の見通し

- 文の中での語句の係り方や語順，文と文との接続の関係，話の構成や展開について理解することができる。(知・技) (1) カ
- ◎ 資料を活用するなどして，自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。A話・聞 (1) ウ
- 話の内容が明確になるように，事実と感想，意見を区別するなど，話の構成を考慮することができる。A話・聞 (1) イ
- 資料を活用して自分の考えを表現することに意欲的に取り組み，聞き手の知識や反応等に応じて効果的なスピーチにしようとする。(学・人)

#### 5 指導と評価の計画（7時間取り扱い）

次	時	学習活動	教師のかかわり	評価規準 [評価方法]
一	1	○単元の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業を間近に控えていることから学習課題を設定する。</li> <li>・修学旅行の事前学習プレゼン資料から課題意識をもてるようにする。</li> </ul>	
		<b>〈学習課題〉</b> 相手や状況，内容に合わせて資料を効果的に使い，『夢スピーチ』をしよう。		
		○話題（夢）を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な夢とともに，きっかけや感じたこと，これからの私等について書き出し，次時の構成検討に生かせるようにする。</li> </ul>	<b>知</b> 大体の構成を理解して，事実と感想，意見を区別しながら，スピーチ内容を書いている。 [スピーチメモ]
二	2 3	○スピーチの内容を整理し，構成を考えてスピーチメモを作成する。 ○「資料作りのポイント」を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年生での学習事項を振り返りながら構成の仕方やスピーチメモの作り方を確かめる。</li> <li>・教科書を使って「資料作りのポイント」の概要を捉えられるようにする。</li> </ul>	<b>思</b> 効果を明確にしながらか構成を考えている。 [スピーチメモ]
	4 本時	○例題を使って「資料作りのポイント」を具現化する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自作例題の資料を使って「資料作りのポイント」の具現化を共有することで，次時の自分のスピーチの資料作りを円滑に進められるようにする。</li> </ul>	<b>思</b> ねらいを明確にして，資料作りを工夫している。 [作成した資料・シート]
	5 6	○自分のスピーチの資料を作成する。 ○スピーチを練習し，内容を再検討したり，資料を修正したりする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のスピーチ資料の作成過程で，「資料作りのポイント」を視点にして個別支援する。</li> <li>・動画教材を活用して，スピーチで意識したいことを視覚的に捉えられるようにする。</li> </ul>	<b>主</b> 聞き手の知識や期待される反応を考えながら，資料を作ったり話し方を工夫したりしようとしている。 [資料・スピーチ練習]
三	7	○『夢スピーチ』を実施する。 ○単元の学びを振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達のスピーチ（資料活用・構成）のよさや今後に生かせそうなことについて振り返ることで，学びの定着を図る。</li> </ul>	<b>知</b> 語句の係り方や語順を文と文の関係を理解し，正しい順で正しい接続詞を使って話している。 [スピーチ]

## 6 本時の学習（4／7）

### （1）目標

「資料作りのポイント」を例題にて具現化する活動を通して、ねらいを明確にしながら資料を工夫することができる。

### （2）展開

時間	学習活動	○教師のかかわり ◆評価〔方法〕	備考
10	1 単元の学習課題を確かめ、本時の課題を捉える。  2 「資料作りのポイント」を具現化した様子を確認する。	<p><b>○教師のかかわり ◆評価〔方法〕</b></p> <p><b>〈視点1-③〉立ち止まって振り返る場</b> ○以前作ったプレゼン資料を振り返って再評価することで、資料活用が課題であることを自覚できるようにする。</p> <p>○自作スピーチを例題として再提示する。 ○例題冒頭部の3つの資料案の中からどれがよいかを検討する中で、「資料作りのポイント」を具現化した様子を捉えられるようにする。（資料作りのポイント） A：聞き手の知識や興味関心に合わせる。 B：情報をしぼり、すっきり見やすくする。（キーワード、色使い、字の大きさなど） C：図や写真などでイメージしやすくする。</p>	以前作ったプレゼン資料  シート
「資料作りのポイント」を使って、伝わりやすいスピーチ資料を作ろう。			
15	3 例題について、冒頭部以外の資料を作成する。	<p><b>〈視点2-①〉考えを表出し比較する場</b> ○作成した資料に、意図を説明するシートを添付することで、考えを明確に表出し、他者と比較しやすくする。</p> <p>○資料作成とシートへの書き込みは紙媒体で行えるようにする。 ○作成した資料とシートはカメラで撮り、ロイロノートを使って児童間で閲覧できるようにする。終わった児童から閲覧できるようにして、気になった資料については、学習活動4で尋ねられるようにする。</p>	タブレットPC（ロイロノート）
15	4 作成した資料の意図や効果について話し合う。	<p><b>〈視点2-②〉納得解を生み出す根拠や理由付けの充実</b> ○作成した資料の意図や効果について話し合うことで、どのような工夫の仕方が最適であるかを理解し、自分のスピーチ資料作りをどのように工夫するとよいかという自身の問いについての納得解を生み出せるようにする。（※学習活動4・5において）</p> <p>◆「資料作りのポイント」を使い、ねらいを明確にして適切な資料を作っている。</p>	
5	5 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	<p><b>〔作成した資料・シート〕</b> ○本時で例題について自作した資料のよさや改善点を振り返り、自分のスピーチ資料での工夫の仕方を問うことで次時への活動への見通しをもてるようにする。</p>	